

未来を拓く人づくり



日立市

日立市教育委員会

〒317-8601 日立市助川町1丁目1番1号
TEL : 0294-22-3111 FAX : 0294-22-0465
E-mail : suposhin@city.hitachi.lg.jp

日立市スポーツ振興計画 2024-2028

元気、感動、輝く笑顔

スポーツでつながる

日立市
スポーツ
振興計画

2024 - 2028



日立市教育委員会

目 次

第1章 計画の策定に当たって	1
1 策定の趣旨	2
2 計画の位置付け	2
3 計画の期間及び推進体制	3
(1) 計画の期間	3
(2) 計画の推進	3
第2章 スポーツを取り巻く現状とこれまでの取組状況	5
1 国・県におけるスポーツ施策の状況	6
(1) スポーツ基本法（平成23年法律第78号）における「スポーツの捉え方」	6
(2) （国）第3期スポーツ基本計画（令和4年度から令和8年度まで）...	6
(3) （県）いばらき教育プラン（令和4年度から令和7年度まで）.....	7
2 本市のスポーツ施策の取組状況	8
(1) 未来を拓くプロジェクトの推進	8
(2) 「ひたちらしさ」をいかした取組の推進	10
3 本市のスポーツに関する今後の課題	10
(1) スポーツに期待される役割の拡大	10
(2) ライフステージに応じたスポーツへの参加促進	11
(3) 地域のスポーツ活動を支える団体への支援	11
(4) スポーツ関係団体との連携強化	11
(5) スポーツツーリズムの促進	11
(6) スポーツ施設の計画的な整備	11
第3章 計画の基本的な考え方	13
1 本市の教育の基本理念	14
2 目指す姿	14
3 本市のスポーツの定義	14
4 計画の特徴	15

第4章 今後5年間で取り組む施策	17
1 施策の体系	18
(1) 推進テーマ	18
(2) 施策の柱	18
2 施策の体系図	20
3 施策の展開	22
施策の柱Ⅰ 市民の誰もが生涯にわたって楽しめるスポーツの推進	24
施策の柱Ⅱ 競技スポーツとスポーツを支える団体の育成・支援	38
施策の柱Ⅲ スポーツを通じた地域の活性化	46
施策の柱Ⅳ スポーツ施設の多様な整備	54
第5章 参考資料	63
1 計画の策定経過	64
検討状況	64
策定経過	64
2 策定委員会	66
(1) 日立市スポーツ振興計画策定委員会 委員名簿	66
(2) 日立市スポーツ振興計画策定委員会 設置要項	67
3 目標指標一覧	69
4 主な取組一覧	70
5 意見聴取の結果	72
6 用語解説	73
7 日立市スポーツ施設整備計画（要約）	75

第 1 章

計画の策定に当たって

1 策定の趣旨

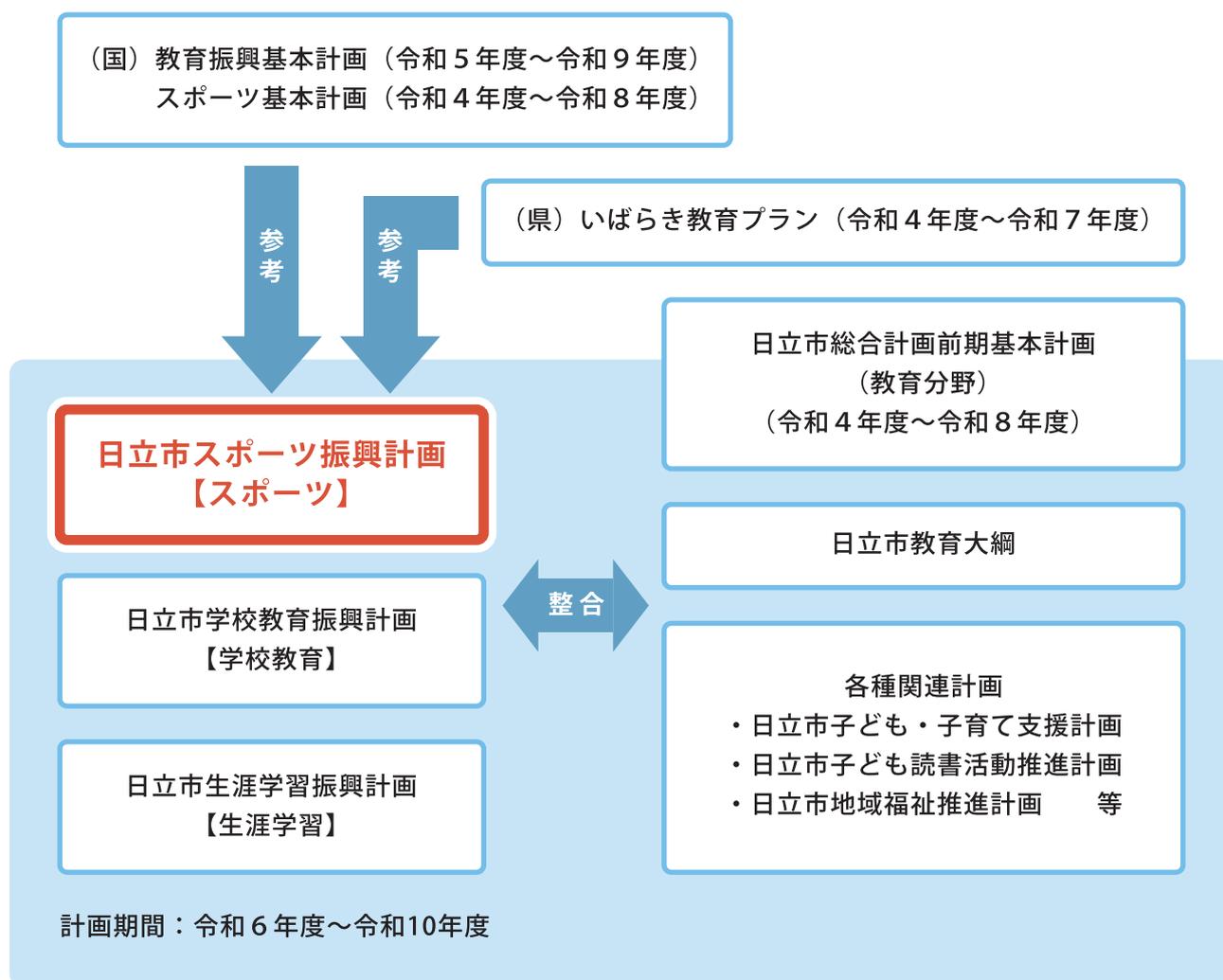
- (1) これまで、本市では「日立市教育振興基本計画」（計画期間：2019（令和元）年度～2023（令和5）年度）を基に「学校教育」を始め、「生涯学習」、「スポーツ」それぞれの分野ごとに様々な教育施策を展開してきました。
- (2) 日立市教育振興基本計画の期間が終了するに当たり、デジタル化の進展や技術革新、グローバル化など社会経済情勢の変化を始め、「学校教育」、「生涯学習」、「スポーツ」の分野ごとに課題やニーズが広範化かつ多様化していることを踏まえ、効果的な施策形成を図るため、1つの計画にまとめていた3分野をそれぞれ個別の計画として策定しました。

2 計画の位置付け

(1) 国では、スポーツ基本法第9条第1項に基づき、スポーツに関する施策の総合的かつ計画的な推進を図るための重要な指針として、「第3期スポーツ基本計画」（計画期間：2022（令和4）年度～2026（令和8）年度）を策定し、スポーツに関する施策を推進しています。

本計画は、スポーツ基本法第10条第1項の規定に基づく「地方スポーツ推進計画」として策定しました。

(2) また、本市の教育が目指す基本的な考え方を示した「日立市教育大綱」や上位計画である「日立市総合計画前期基本計画」（計画期間：2022（令和4）年度～2026（令和8）年度）に示すスポーツに関する施策をより具体的に推進する計画として策定しました。



3 計画の期間及び推進体制

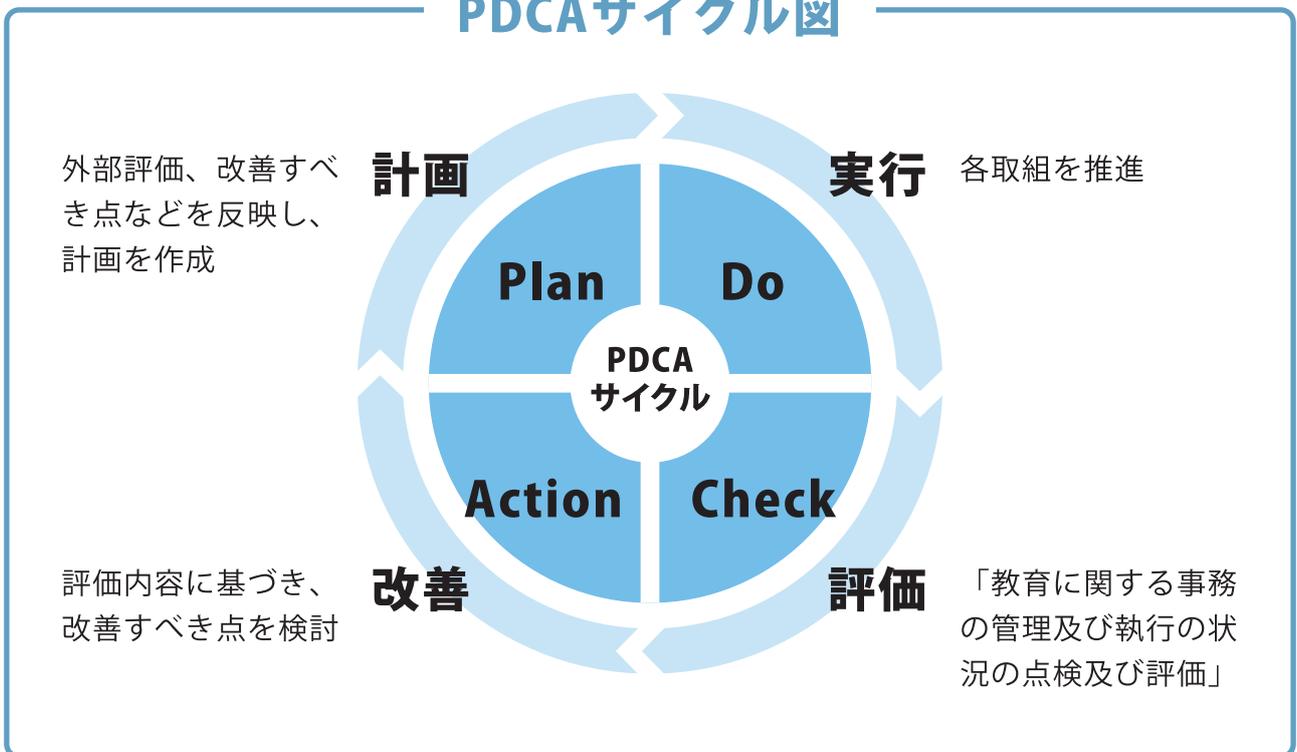
(1) 計画の期間

2024（令和6）年度から2028（令和10）年度まで（5年間）

(2) 計画の推進

計画に位置付けた施策については、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第26条の規定に基づいて実施する「教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価」を活用しながら、より効果的な取組を推進していきます。

PDCAサイクル図



○ また、本市の教育目標を実現するため、本計画に掲げる施策や事業を着実に実行するとともに、成果を検証・分析し、その結果に応じて事業内容を見直します。このため、各施策の成果を見極めるための目標指標を設定し、PDCAサイクルの手法を取り入れた進行管理を実施します。

第 2 章

スポーツを取り巻く現状と
これまでの取組状況

(1) スポーツ基本法（平23年法律第78号）における「スポーツの捉え方」

ア 世界共通の人類の文化としての「スポーツ」

スポーツ基本法の前文において、「スポーツは、世界共通の人類の文化である」と位置付けられています。

スポーツは「心身の健全な発達、健康及び体力の保持増進、精神的な充足感の獲得、自立心その他精神の涵養^{かんよう}等のために個人又は集団で行われる運動競技その他の身体活動」と広く捉えられており、「スポーツを通じて幸福で豊かな生活を営むことは、すべての人々の権利」とであるとされています。

(2) (国) 第3期スポーツ基本計画（令和4年度から令和8年度まで）

ア (国) スポーツ基本計画で取り扱うスポーツ

- ・ スポーツは、「する」「みる」「ささえる」という様々な形の「自発的な」参画を通して、人々が感じる「楽しさ」や「喜び」にその本質をもち「ウィルビーイング」の考えにつながるとされています。
- ・ スポーツを通じて、他の分野にも貢献し、優れた効果を波及し、様々な課題を解決することができる社会活動等に寄与するものとされています。

イ スポーツ界におけるDXの推進

スポーツ界にDXを導入することで、様々なスポーツに関する知見や機会を国民・社会に提供することを可能とし、スポーツを「する」「みる」「ささえる」の実効性を高めることを政策目標としています。

ウ 医療・介護、民間事業者・保険者との連携を含む、スポーツによる健康増進の促進

地域住民の多様な健康状態やニーズに応じて、関係省庁で連携しつつ、スポーツを通じた健康増進による健康長寿社会を促進するとしています。

エ スポーツを通じた共生社会の実現

誰もが「する」「みる」「ささえる」スポーツの価値を享受し、様々な立場や状況の人々と「ともに」スポーツを楽しめる環境の構築を通じ、スポーツを軸とした共生社会を実現することを目標としています。

(3) (県) いばらき教育プラン(2022(令和4)年度から2025(令和7)年度まで)

ア 学び・文化・スポーツ・遊びを楽しむ茨城

人生100年時代の到来に向け、ライフスタイルや価値観が多様化する中、県民がそれぞれの生涯学習や文化活動、スポーツや余暇を楽しむ機会や環境をつくるとしてしています。

イ スポーツの振興と遊びのある生活スタイル

- (ア) スポーツの振興の一環としてみるスポーツへの県民の参加を促進するため、プロスポーツチームや関係団体等と連携して地域イベントの開催等を推進するとしてしています。
- (イ) 生涯スポーツ振興のため、地域スポーツにおける指導者の資質向上や総合型地域スポーツクラブ等の活性化を支援するとしてしています。
- (ウ) 県民がスポーツに親しみ、充実した余暇を楽しむことができるよう、都市公園の魅力向上を図るとともに、県営体育施設の整備を推進するとしてしています。

(国) 第3期スポーツ基本計画

5年間の日本のスポーツの重要な指針

今後の我が国のスポーツ政策の方向性を示すもの



国民



スポーツ団体



民間事業者



地方公共団体
教育機関



国

関係者が一体となって「スポーツ立国」実現を目指す

(1) 未来を拓くプロジェクトの推進

本市では、これまでの計画期間（2019（令和元）年度～2023（令和5）年度）において、基本理念である「未来を拓く人づくり」の実現に向けて、スポーツ施設の計画的な整備を推進し、市民ニーズを捉えた施設の利便性の向上を図るとともに、スポーツ合宿の誘致や市民へのスポーツに関する様々な情報の提供による、スポーツによるまちの活性化につながる取組を進めてきました。

ア 市民運動公園、スポーツ広場等施設整備の推進

プロスポーツ等の大規模な大会の誘致や市民スポーツの利用環境の向上を図るため、市民運動公園やスポーツ広場等の整備を推進しました。

また、施設の利用環境の向上や長寿命化を図るとともに、地域バランスに配慮した整備を推進してきました。

(ア) 市民運動公園の整備

池の川さくらアリーナ大型映像装置の設置、陸上競技場の夜間照明設備の設置、陸上競技場屋外トイレの整備、テニスコート管理棟の改築、テニスコート練習場の整備等を推進してきました。

(イ) スポーツ広場等の整備

折笠スポーツ広場の照明設備のLED化、各施設のトイレのバリアフリー化（中里スポーツ広場、折笠スポーツ広場、諏訪スポーツ広場、十王スポーツ広場）、会瀬スポーツ広場の新設等を推進してきました。

イ スポーツ合宿の誘致推進

本市のスポーツ施設を活用して交流人口の拡大を図るため、茨城県ホテル旅館生活衛生同業組合日立支部と連携して合宿誘致を推進してきました。

ウ スポーツに関する情報の提供

（公財）日立市スポーツ協会広報誌「スポ・レクひたち」を活用したイベント情報や全国大会出場者等の発信を行ってきました。

(2) 「ひたちらしさ」をいかした取組の推進

「健康と活力を生み出すスポーツ」と題し、スポーツは、心身の健全な発達や健康の増進に重要であるとともに、人と人との交流の促進やコミュニティの活性化などにも寄与するため、市民が様々な形で積極的にスポーツに参

加し親しむことができるよう、ソフト・ハード両面にわたる環境の整備を目指し取り組んできました。

ア 池の川さくらアリーナの活用促進

市民がトップアスリートの試合を観戦できるよう、国内トップレベルの試合であるプロバスケットボールチーム「茨城ロボッツ」のBリーグ公式戦、女子バレーボールチーム「日立Astemoリヴァーレ」のVリーグ公式戦等を定期的に誘致・開催しました。また、スポーツ以外にも、産業祭や成人祝式典などの催物、ライブコンサート等の文化・産業イベント等にも幅広く活用しました。

イ 地域と連携したスポーツへの多様な参加機会の充実

学校体育施設の地域への開放によるスポーツ活動場所の提供や、スポーツ推進委員や総合型地域スポーツクラブ等による地域との連携など、市民のスポーツへの参加機会の充実を図りました。



池の川さくらアリーナで開催されたプロバスケットボールBリーグ



池の川さくらアリーナで開催されたマーチングバンドコンサート

ウ さくらロードレースの魅力向上に向けた検討

本市最大のスポーツイベントであるさくらロードレースの魅力の向上を目指して、フルマラソンの開催検討、新型コロナウイルス感染対策の実施のほか、エントリーや記録証のオンライン化等に取り組みました。

フルマラソンについては、本市の新たな魅力を発信するため、さくらロードレースとは別に、新たな大会として開催することにしました。

エ 地域スポーツクラブの育成

スポーツ少年団の活動場所の確保を始めとした支援や総合型地域スポーツクラブの自立に向けた支援を進めてきました。

3 本市のスポーツに関する今後の課題

(1) スポーツに期待される役割の拡大

少子高齢化や人口減少が進行する中で、スポーツを通じた交流や高齢者の生きがいづくりをはじめ健康の増進（フレイル、ロコモ等の未然防止）や、それに伴う医療費等の抑制効果など、スポーツに期待される役割が拡大しています。

(2) ライフステージに応じたスポーツへの参加促進

市民のスポーツに対する関心をより一層高めるとともに、スポーツ活動への参加をライフステージに応じて更に促進していく必要があります。

(3) 地域のスポーツ活動を支える団体への支援

地域におけるスポーツの推進状況や中学校の部活動地域移行の課題などを踏まえ、子どもたちを育むスポーツ環境の充実や総合型地域スポーツクラブやスポーツ少年団など地域活動を下支えするスポーツ団体への支援が求められています。

(4) スポーツ関係団体との連携強化

交流人口の拡大を図り、まちの活性化につなげていくためには、プロスポーツや企業スポーツを始め関係団体との連携を強化し、スポーツイベントの開催やスポーツ合宿の誘致等の取組を一層推進していく必要があります。

(5) スポーツツーリズムの促進

野球、ラグビーフットボール、サッカー等各種競技の世界大会を背景に、スポーツを観光資源としたスポーツツーリズムへの取組などが注目度を増しています。スポーツへの関心が高まる中、まちづくりにおいてもスポーツの果たす役割は一層大きなものとなっています。

(6) スポーツ施設の計画的な整備

市民のライフスタイルに応じた、身近で気軽にスポーツに親しめる環境の整備や、公共スポーツ施設を快適で安全に利用できるよう計画的な整備・改修を推進する必要があります。

知っていますか？フレイルとロコモ

フレイルとはなんですか？放っておくとどうなりますか？

フレイルとは活動的な生活をしている状態（健常）と要介護状態の間の状態です。手前の軽い状態を「プレフレイル」といいます。自覚症状がない場合も多いです。フレイル高齢者では予備能力が低下していて、感染症などにかかったりすると考えた以上に体力が失われ、要介護となる危険が高くなります。様々な病気、手術、事故、薬の副作用なども要介護状態に進むきっかけです。

フレイルな状態になっているのに、何も対策をとらずに放置していると、要介護状態になってしまう危険性が高まります。一方で、持っている病気を適切に治療するとともに、栄養や運動習慣など生活習慣を整えたりすることで、フレイル状態から脱却できるともわかっています。フレイルは早期発見と早期対策が大事です。

フレイルとは体だけの問題ですか？

フレイルとは、3つのあらわれかたがあります。動く、食べるなどの日常生活を営むために必要な身体能力が衰えてしまう身体的フレイル、外出減少や独居などにより社会とのつながりが希薄になる社会的フレイル、そして認知機能低下や抑うつなどの精神心理的フレイルです。フレイルは体だけでなく3つの関係の問題でもあります。

ロコモとは何ですか？

ロコモとはロコモティブシンドロームを略した言い方です。ロコモティブシンドロームとは、移動することを表す英語のロコモーション、移動するための能力があることを表す英語のロコモティブから作った言葉で、移動するための能力が不足したり、衰えたりした状態を指します。人間が立ったり歩いたり作業するなどの広い意味での運動のために必要な体の仕組み全体を運動器と言います。運動器は骨・関節・筋力・神経などで、その障害のため、立ったり歩いたりするための身体能力（移動機能）の低下が、ロコモです。

日常生活に支障をきたしている自覚がなくても、ロコモになっていたり、すでに進行している場合があります。高血圧など生活習慣病のある人では比較的若い頃からロコモの原因となる病気にかかりやすいので、ロコモかどうかを判断するためのテストを受けます。また、すでにロコモとなっても進行させないようにすることも大切です。

ロコモと身体的フレイルの関係は？

身体的フレイルとは身体機能の低下が自覚症状を伴って顕著になった状態ですから、ロコモ対策をせず、知らないうちにロコモがさらに進行し重症化すると、移動のための身体機能の低下が自覚症状を伴って顕著になった状態、すなわち身体的フレイルになります。

<出展：一般社団法人日本老年医学会「知っていますか？フレイルとロコモ」より抜粋>

第 3 章

計画の基本的な考え方

未来を拓く人づくり

人生100年時代を、より健康に豊かに生きていくために、様々な分野で生涯にわたって学ぶことのできる環境づくりを推進し、あらゆる学びを通じて人と人とのつながりを享受でき、多様性を認め合う共生社会の実現を目指していきます。

そのため、スポーツ分野においても、子どもから高齢者まで様々な年代の方や、障害のある方などを含めたあらゆる市民の方々が、身近に生涯にわたってスポーツに親しめることができる環境づくりに取り組むとともに、スポーツイベント等の開催による交流人口の拡大など、スポーツを活用したまちおこしにつなげていきます。

すべての市民が、年齢や性別、障害の有無等にかかわらず、新たな健康習慣を実践しながら、身近な場所でスポーツに親しみ、楽しむことのできる環境を（公財）日立市スポーツ協会と連携協力して整えます。

また、競技者や競技団体に対する支援を充実し、競技力を向上します。

本市では、サッカー（2チーム）、バスケットボール、野球の4つのプロスポーツチーム、ラグビーフットボール、バレーボールの2つのトップアマチュアスポーツチームとホームタウン等の連携協定を締結しており、本市の魅力を様々な形で発信していきます。

これらのチームに加え、地域スポーツ団体や包括連携協定を締結した企業等と連携し、市民へのスポーツ観戦機会の提供を始め、青少年の健全育成、市民の健康増進、地域振興等を目的に取組を一層推進していきます。

スポーツは、市民の誰もが親しみ、楽しいと感じることができる身体活動であり、ひいては健康で幸せな生活につながります。また、自らの意思により一生関わっていくことができるものであり、地域の活性化に良い影響を与えるものです。

計画の策定に当たっては、スポーツを取り巻く社会情勢等を踏まえ、本市のスポーツの目指す姿や定義を具体化するために、次の4つの視点を持って策定することとします。

視点1 ライフステージ

スポーツを通じた幸福で豊かな生活を実現するため、幼年期から高齢期まで、それぞれの成長や体力、興味・関心、適性等に応じて、日常的にスポーツに親しみ、楽しみ、スポーツをする、みる、ささえる活動に参加することを推進する計画としました。



視点2 誰もが楽しめる生涯スポーツの推進（SDGsの方向性との合致）

ユニバーサルスポーツ等を推進するとともに、誰もが利用しやすいスポーツ施設の環境を整備するなど、年齢や性別、障害の有無等にかかわらず、誰もが新たな健康習慣を実践しながら、身近な場所で生涯にわたってスポーツに親しみ、楽しむことのできる環境を推進する計画としました。



視点3 デジタル化

デジタル化を推進し、様々なスポーツ活動の効率化、最適化を図るとともに、既存の手法等にとらわれない、いつでも、どこでもスポーツを楽しむことができる新たな取組を推進する計画としました。



視点4 ひたらしさ

企業スポーツやスポーツ少年団等が活発である本市の特徴をいかすとともに、地域に根差したプロやトップアマチュアチーム等と連携した取組などを通じて、ひたらしい取組を推進する計画としました。



第 4 章

今後 5 年間で取り組む施策

(1) 推進テーマ

スポーツでつながる 元気、感動、輝く笑顔

スポーツは、体力の向上や健康増進をもたらすだけでなく、人々を「笑顔」にし、時には「感動」を与え、地域の活性化に良い影響を与えるものです。市民が身近な場所で楽しくスポーツに親しみ、「元気」に生きがいを持って暮らせる環境づくりを進めるとともに、スポーツイベント等の開催による交流人口の拡大など、「スポーツを活用したまちおこし」を目指します。

(2) 施策の柱

I 市民の誰もが生涯にわたって楽しめるスポーツの推進

市民の健康増進を図るため、自主的なスポーツ活動を支援するとともに、各種のスポーツ・レクリエーションに関するイベント・大会・講習会等を関係団体等と連携・協力して実施するなど、市民の誰もが生涯にわたってスポーツに日常的に取り組める環境づくりを推進します。

II 競技スポーツとスポーツを支える団体の育成・支援

プロスポーツ・トップアマチュアのスポーツチームや企業と連携して取り組むことにより、指導者の充実を図るなど、競技スポーツの強化・支援につなげます。

また、総合型地域スポーツクラブやスポーツ少年団等のスポーツ団体のほか、（公財）日立市スポーツ協会加盟の競技団体の育成、支援などの取組を推進します。

III スポーツを通じた地域の活性化

市民に、トップレベルのスポーツに触れ合う機会を提供するとともに、プロやトップアマチュアスポーツチームとのホームタウン協定等に基づき、スポーツを「みて」「ささえて」楽しむ環境づくりを推進し、交流人口の創出に努めます。

全国規模の大会や大型イベントの開催のほか、スポーツ合宿の誘致などスポーツツーリズムを促進し、スポーツを通じた地域の活性化を図ります。

IV スポーツ施設の多様な整備

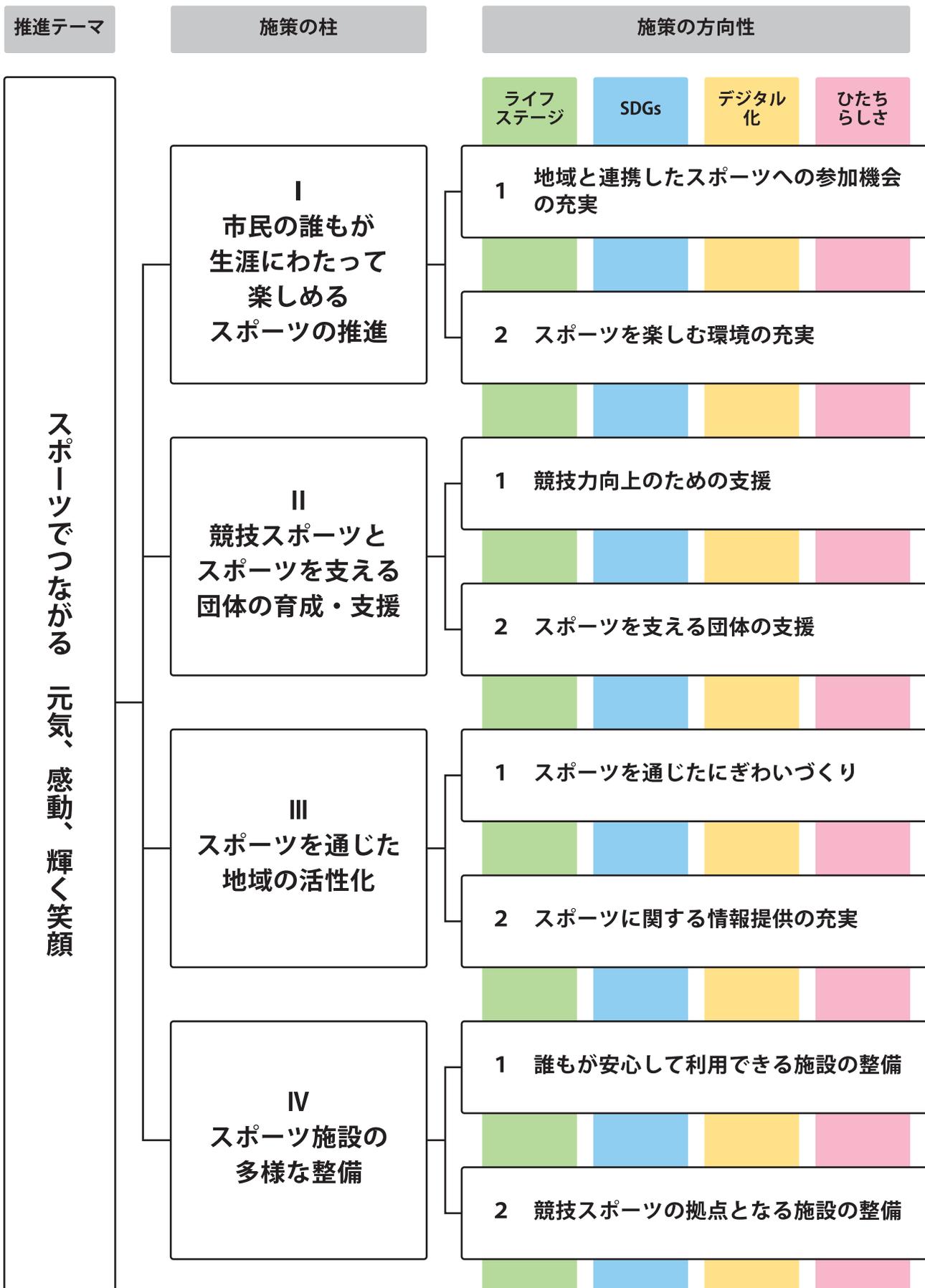
身近な場所で誰もが利用しやすいスポーツ施設の環境を整備するなど、すべての市民が安全・安心に利用できるよう、スポーツ施設の利便性と安全性の向上を図ります。

また、トップレベルのスポーツイベントや各種大会の誘致など、様々な利用に対応できるよう、市民運動公園等の施設改修や整備を計画的に進めます。



2

施策の体系図



主な取組

1 プレゴールデンエイジの育成 2 関係団体との連携によるユニバーサルスポーツ等の推進
3 地域スポーツクラブと連携した身近なスポーツの推進
4 スポーツ推進委員による生涯スポーツの推進 5 小学生への学校プールの開放

6 スポーツボランティアの参加機会の充実 7 DXを活用したスポーツへの参加機会の提供
8 市民とプロスポーツ選手等との交流・協働 9 スポーツ施設の適切な管理運営
10 地域スポーツ団体への学校体育施設の開放 11 久慈川サイクリングコースの管理運営
12 参加型のスポーツ・レクリエーション事業の推進 13 市民スポーツ大会の開催支援
14 スポーツ協会等と連携したスポーツ教室の開催 15 パンポンの普及推進
16 障害者のスポーツ機会の拡充 17 ラジオ体操の普及

18 スポーツスクール・アカデミー等の誘致・促進 19 スポーツ指導者の育成
20 企業スポーツとの連携、地域人材の確保 21 スポーツ全国大会等出場者への支援
22 スポーツ協会加盟団体の育成

23 スポーツ少年団の運営支援 24 総合型地域スポーツクラブの育成
25 スポーツ推進委員協議会の活動支援 26 (公財) 日立市スポーツ協会の活動支援
27 部活動の段階的な地域移行

28 フルマラソンの開催による交流人口の拡大 29 スポーツツーリズムの推進
30 市民運動公園の活用推進 31 日立さくらロードレースの開催
32 JABA日立市長杯選抜野球大会の開催

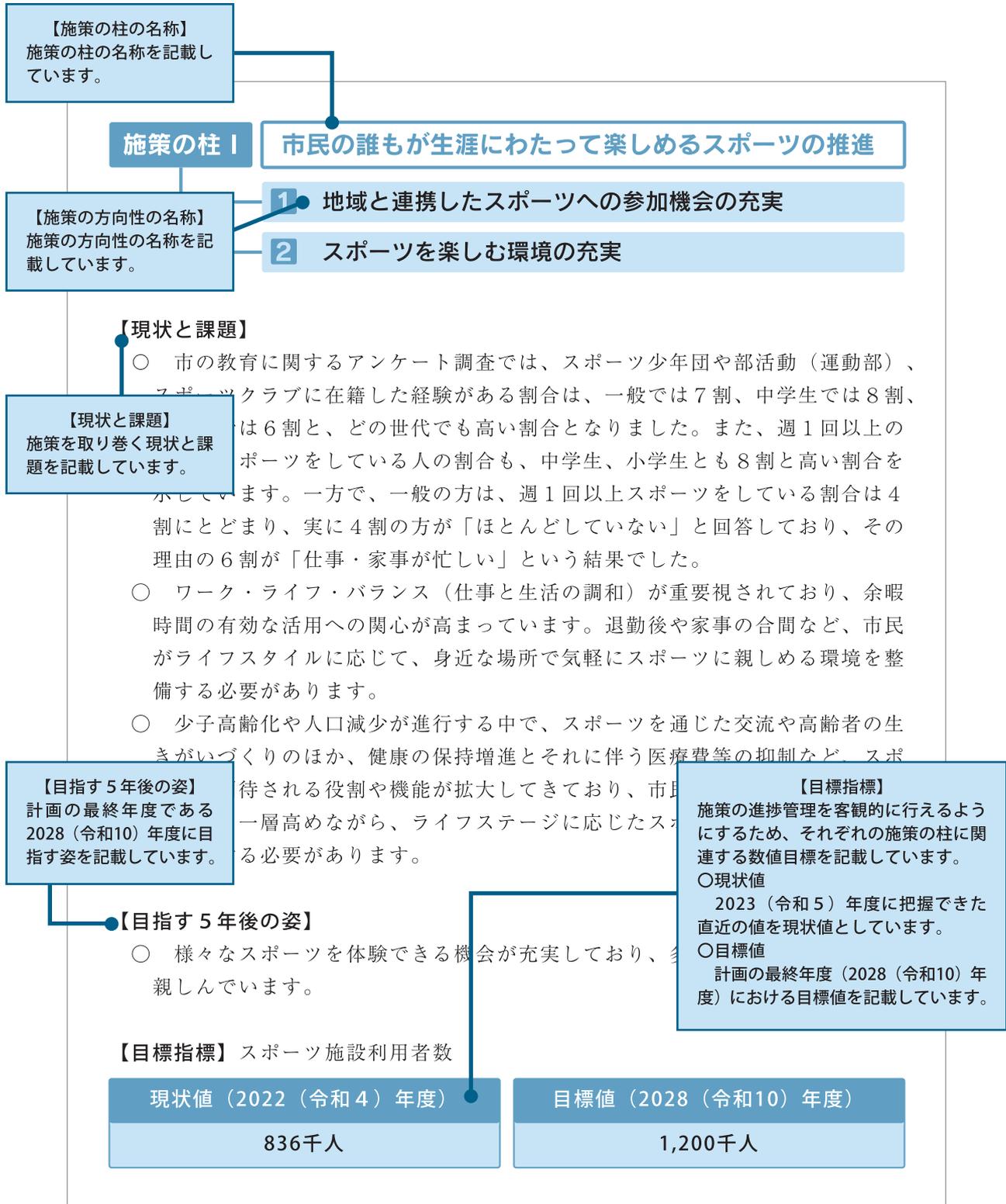
33 スポーツによる健康増進、スポーツを科学する取組の推進と情報提供
34 プロスポーツ等と連携した多様な情報の発信
35 ホームページ・広報誌等を通じたスポーツ情報の発信
36 スポーツの功労者及び競技優秀者の表彰

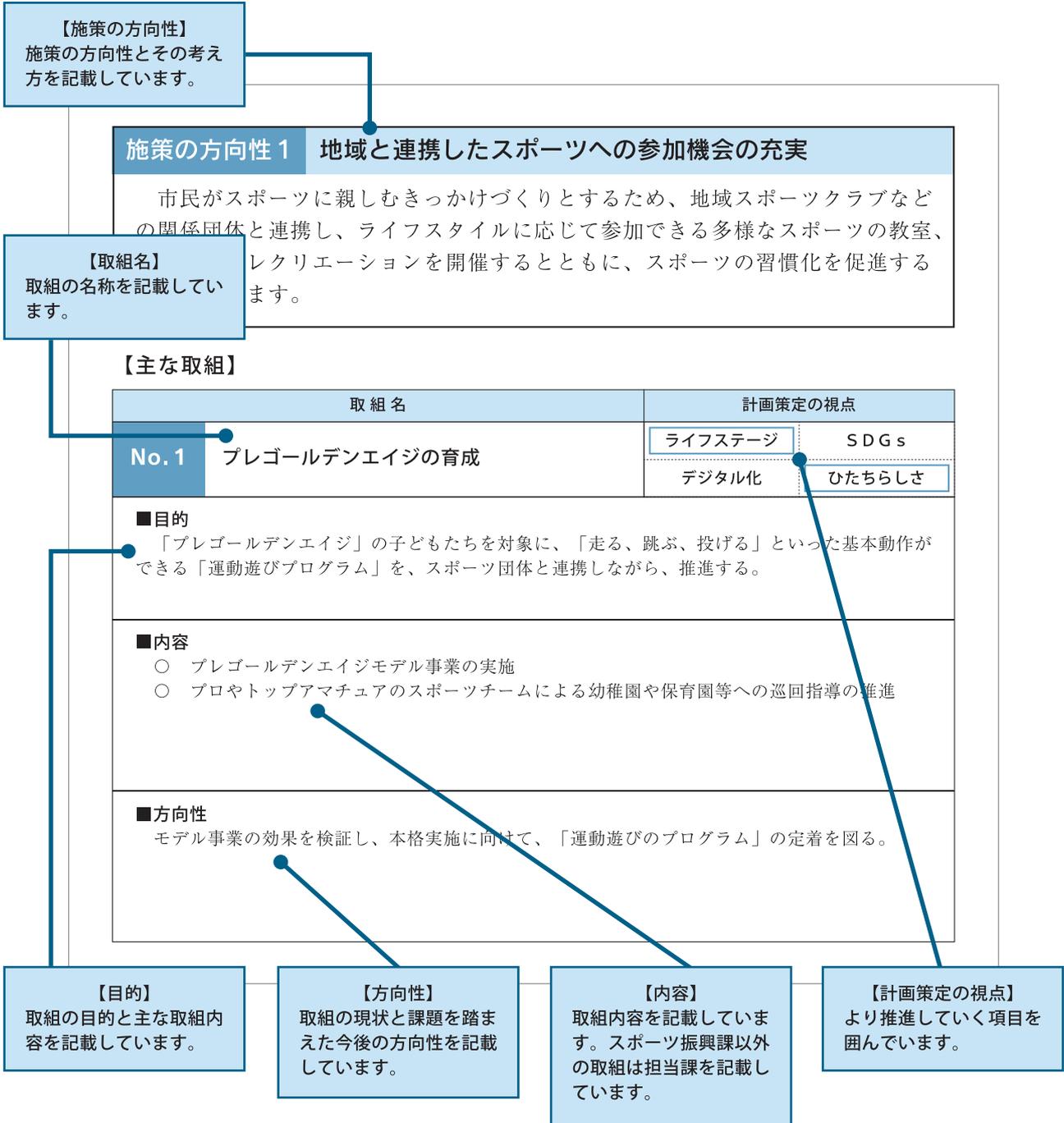
37 南部地区への新たなスポーツ施設の整備 38 グラウンド芝生化の推進
39 施設のバリアフリー化等の環境整備 40 衛生的で安心して使用できるトイレの整備・更新
41 空調換気設備の設置等利用環境の向上 42 老朽化した施設の改修・長寿命化対策
43 若者が集い交流を図ることができる施設整備の検討
44 競泳等の競技大会が実施できるプール設備の整備検討
45 超高齢社会に対応したやさしく使いやすい施設の整備

46 運動公園野球場の再整備 47 運動公園施設の利用環境の向上
48 陸上競技場の活用を図るための整備の検討

【各施策の構成と見方】

4つの柱ごとに次のような構成になっています。





施策の柱 I

市民の誰もが生涯にわたって楽しめるスポーツの推進

1 地域と連携したスポーツへの参加機会の充実

2 スポーツを楽しむ環境の充実

【現状と課題】

- 市の教育に関するアンケート調査では、スポーツ少年団や部活動（運動部）、スポーツクラブに在籍した経験がある割合は、一般では7割、中学生では8割、小学生では6割と、どの世代でも高い割合となりました。また、週1回以上の頻度でスポーツをしている人の割合も、中学生、小学生とも8割と高い割合を示しています。一方で、一般の方は、週1回以上スポーツをしている割合は4割にとどまり、実に4割の方が「ほとんどしていない」と回答しており、その理由の6割が「仕事・家事が忙しい」という結果でした。
- ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）が重要視されており、余暇時間の有効な活用への関心が高まっています。退勤後や家事の合間など、市民がライフスタイルに応じて、身近な場所で気軽にスポーツに親しめる環境を整備する必要があります。
- 少子高齢化や人口減少が進行する中で、スポーツを通じた交流や高齢者の生きがいづくりのほか、健康の保持増進とそれに伴う医療費等の抑制など、スポーツに期待される役割や機能が拡大してきており、市民のスポーツに対する関心をより一層高めながら、ライフステージに応じたスポーツ活動への参画を更に推進する必要があります。

【目指す5年後の姿】

- 様々なスポーツを体験できる機会が充実しており、多くの市民がスポーツに親しんでいます。

【目標指標】 スポーツ施設利用者数

現状値（2022（令和4）年度）

836千人

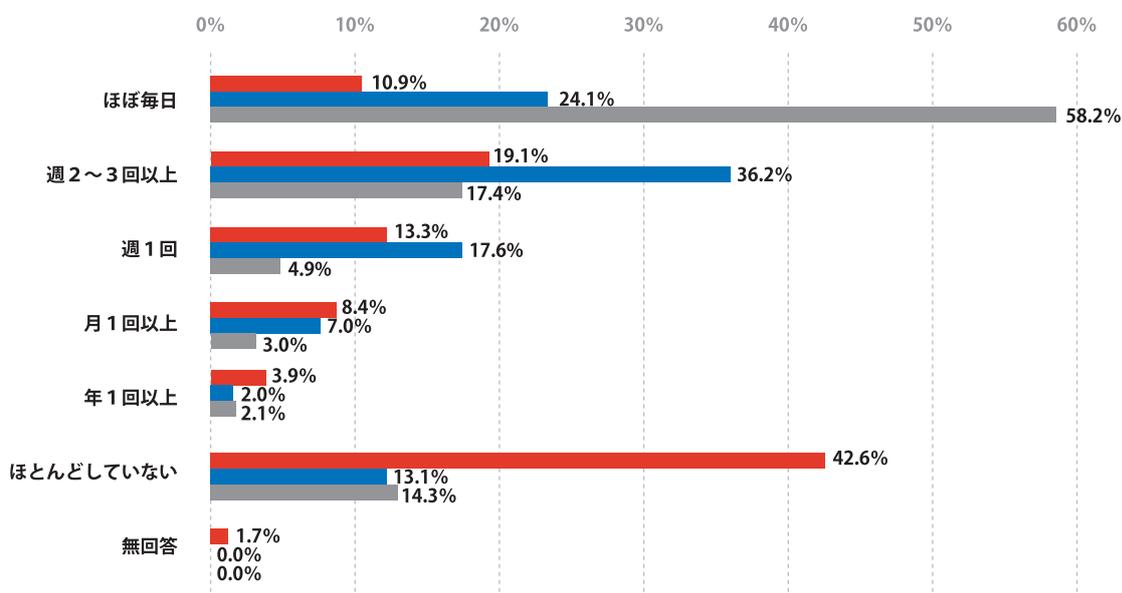
目標値（2028（令和10）年度）

1,200千人

市の教育に関するアンケート調査からみる現状

スポーツを行う頻度

問：スポーツをどの程度の頻度で実施しているか。



主な結果	課題等
<p>週1回以上スポーツをしている人の割合は、一般43.3%、小学生77.9%、中学生80.5%で、ほとんどしていない人の割合は、一般42.6%、小学生13.1%、中学生14.3%となっている。</p> <p>また、スポーツをしていない理由は、一般では「仕事・家事が忙しい」、小中学生では「スポーツが苦手」、「家で遊ぶ方が好き」などの回答が多くなった。</p>	<p>スポーツを日常的に楽しみ、気軽に取り組める環境づくり</p>

スポーツをしていない理由

	理由	割合 (H28との比較)
一般	仕事が忙しい	42.3% (+8.3%)
	家事が忙しい	21.9% (+2.0%)
	ケガが怖い	16.4% (+1.5%)
小学生	スポーツが苦手	37.5% (+3.9%)
	ゲームなど家で遊ぶほうが好き	36.3% (+7.1%)
	上手ではない	31.3% (新 規)
中学生	スポーツが苦手	46.8% (-4.5%)
	ゲームなど家で遊ぶほうが好き	46.8% (+11.8%)
	勉強、塾が忙しい	31.9% (+4.4%)
	上手ではない	31.9% (新 規)

施策の方向性 1 地域と連携したスポーツへの参加機会の充実

市民がスポーツに親しむきっかけづくりとするため、地域スポーツクラブなどの関係団体と連携し、ライフスタイルに応じて参加できる多様なスポーツの教室、イベント・レクリエーションを開催するとともに、スポーツの習慣化を促進する取組を進めます。

【主な取組】

取組名		計画策定の視点	
No. 1	プレゴールデンエイジの育成	ライフステージ	SDGs
		デジタル化	ひたらしさ
<p>■目的</p> <p>「プレゴールデンエイジ」の子どもたちを対象に、「走る、跳ぶ、投げる」といった基本動作ができる「運動遊びプログラム」を、スポーツ団体と連携しながら、推進する。</p>			
<p>■内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ プレゴールデンエイジモデル事業の実施 ○ プロやトップアマチュアのスポーツチームによる幼稚園や保育園等への巡回指導の推進 			
<p>■方向性</p> <p>モデル事業の効果を検証し、本格実施に向けて、「運動遊びのプログラム」の定着を図る。</p>			



プレゴールデンエイジ育成モデル事業

●「プレゴールデンエイジ」とは…

5歳から8歳頃の年齢層のこと。5歳から8歳頃は、神経系統が著しく発達し、体内に様々な神経回路が張り巡らされていく時期で、この時期にいろいろな運動を経験するかしないかで、その後の動作の習得に大きく影響すると言われている。

取組名		計画策定の視点	
No.2	関係団体との連携による ユニバーサルスポーツ等の推進	ライフステージ	SDGs
		デジタル化	ひたらしさ
<p>■目的</p> <p>年齢や性別、障害の有無にかかわらず、誰もが参加できるスポーツの普及促進を図る。</p>			
<p>■内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ ユニバーサルスポーツ等の用具の配置・貸出 ○ ユニバーサルスポーツ等の出前講座（スポーツ推進委員） ○ スポーツ・レクリエーションふれあい教室（障害福祉課） 			
<p>■方向性</p> <p>これまで実施してきたスポーツ推進委員によるニュースポーツ出前講座や、（公財）日立市スポーツ協会が実施しているニュースポーツ用具の貸出しを拡充するとともに、障害者スポーツ団体等と連携し、指導者の確保を図る。また、高齢者については、体力などの身体機能の状態に応じて、介護予防事業（健康づくり推進課）や高齢者生きがい支援事業（高齢福祉課）などを通じたスポーツ・レクリエーションを推進する。</p>			



フレインプディスクを体験する様子

●「ユニバーサルスポーツ」とは…

「ユニバーサルスポーツ」について、決まった定義はありませんが、この計画では、年齢や障害の有無に関わらず、大人でも子どもでも、みんなが一緒に参加し、活動できるスポーツを指します。（【例】卓球バレー、ポッチャ、ふうせんバレー）

なお、似た意味の用語で「アダプテッドスポーツ」や「ニュースポーツ」等がありますが、「アダプテッドスポーツ」は、既存のスポーツをその人の発達や障害に合わせて、道具やルールを柔軟に変更したスポーツ（【例】車いすツインバスケットボール、ツーパウンドテニス）を指し、「ニュースポーツ」は、一般的に、だれもが、いつでも、どこでも、いつまでも、気軽に自由楽しめる新たなスポーツ（【例】ソフトバレーボール、ユニカール、グラウンドゴルフ、ゲートボール）とされています。

取組名		計画策定の視点	
No.3	地域スポーツクラブと連携した身近なスポーツの推進	ライフステージ	SDGs
		デジタル化	ひたらしさ
<p>■目的</p> <p>総合型地域スポーツクラブやスポーツ少年団等の地域スポーツクラブと連携して、誰もが身近な場所で、多様なスポーツ・レクリエーションに参加できる環境をつくる。</p>			
<p>■内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 地域スポーツクラブのPR活動の支援 ○ (公財) 日立市スポーツ協会と連携した地域スポーツクラブへの助言、情報の提供 ○ (公財) 日立市スポーツ協会と連携した地域スポーツクラブへの運営の支援 			
<p>■方向性</p> <p>多様なスポーツ・レクリエーション活動を提供するため、(公財) 日立市スポーツ協会と連携した地域スポーツクラブの活動場所や指導者の確保等、様々な支援を進める。</p>			

取組名		計画策定の視点	
No.4	スポーツ推進委員による生涯スポーツの推進	ライフステージ	SDGs
		デジタル化	ひたらしさ
<p>■目的</p> <p>スポーツ基本法に基づき、スポーツ推進のための事業実施に係る連絡調整や市民に対するスポーツの実技指導、その他生涯スポーツに関する指導助言を行う。</p>			
<p>■内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ スポーツ指導者講習会の企画・運営 ○ ニュースポーツの普及促進(出前講座、広報誌の発行) ○ 各種スポーツ大会等の運営協力 ○ ふれあい運動会の運営支援、その他障害者スポーツの普及への取組 ○ 各種研修会への参加 			
<p>■方向性</p> <p>これまで普及を進めてきた子どもから高齢者まで楽しめるニュースポーツに加え、障害の有無にかかわらず取り組むことができるユニバーサルスポーツや、障害者向けのアダプトッドスポーツ等、多様な生涯スポーツの取組についても検討する。</p>			

取組名		計画策定の視点	
No.5	小学生への学校プールの開放	ライフステージ	SDGs
		デジタル化	ひたちらしさ
<p>■目的</p> <p>小学生の泳力と体力向上を図るため、総合型地域スポーツクラブ等の地域団体の協力を得ながら、夏休み期間中に学校プールの開放を実施する。</p>			
<p>■内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 小学校プールの開放（市内の小学生対象） 			
<p>■方向性</p> <p>地域団体と協議しながら、安全・安心かつ効率的な運営体制の確立を図る。</p>			



小学校プール活用事業

施策の方向性2 スポーツを楽しむ環境の充実

市民の誰もが、いつでも気軽にスポーツに親しむことができるよう、「する」「みる」「ささえる」それぞれの市民ニーズを捉えた活動場所、活動機会の提供について、DXの活用を含めて様々な取組を進めます。

【主な取組】

取組名		計画策定の視点	
No.6	スポーツボランティアの参加機会の充実	ライフステージ	SDGs
		デジタル化	ひたらしさ
<p>■目的 大会等のスタッフとして、支える立場でのスポーツへの参加を推進するため、スポーツボランティアの募集情報を収集し、広く情報提供する。</p>			
<p>■内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ ひたちシーサイドマラソンを「ささえる」人材の確保 ○ スポーツボランティアの育成と活用する仕組づくりの検討 ○ ホームページやSNSを活用したスポーツボランティア情報の発信 			
<p>■方向性 個人ボランティアや高校生などによるボランティアへのニーズが高まっていることから、豊富な活動機会の提供を推進するための仕組みを検討する。</p>			

取組名		計画策定の視点	
No.7	DXを活用したスポーツへの参加機会の提供	ライフステージ	SDGs
		デジタル化	ひたらしさ
<p>■目的 いつでも、どこでもスポーツに参加することができるよう、各種スポーツ教室のオンライン開催等の取組を推進する。</p>			
<p>■内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ (公財) 日立市スポーツ協会の実施するスポーツ・レクリエーション教室のオンライン化 ○ 総合型地域スポーツクラブやスポーツ少年団等のデジタル化を進めるための支援 			
<p>■方向性 コロナ禍において、在宅でもスポーツ教室に参加できるようオンライン教室を開催したところ、一定の成果があったことから、様々な環境でも取り組むことができるDXを活用したスポーツを推進する。</p>			

取組名		計画策定の視点	
No.8	市民とプロスポーツ選手等との交流・協働	ライフステージ	SDGs
		デジタル化	ひたちらしさ
<p>■目的 交流人口の拡大や、多くの市民にトップレベルのスポーツと触れ合う機会を創出するため、プロスポーツやトップアマチュア等の試合を誘致・開催する。</p>			
<p>■内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ トップレベルの試合等誘致 茨城ロボッツ(Bリーグ)、茨城県民球団(BCリーグ)、水戸ホーリーホックトレーニングマッチ(Jリーグ)、社会人スポーツ(野球、ラグビーフットボール、バレーボール、卓球等)、大学のリーグ戦など ○ プロスポーツの試合への市民の優待(水戸ホーリーホック日立市の日、鹿島アントラーズ日立市の日等) 			
<p>■方向性 試合情報やチームの取組等を周知する媒体の構築(市報での定期連載・SNS等)を進め、適時、広く市民へ周知するための環境整備を図る。</p>			



池の川さくらアリーナで開催されたプロバスケットBリーグ茨城ロボッツホームゲーム

取組名		計画策定の視点	
No.9	スポーツ施設の適切な管理運営	ライフステージ	SDGs
		デジタル化	ひたらしさ
<p>■目的 スポーツ・レクリエーションの普及・振興を図るため、市民が安心して利用できるよう、市民運動公園、スポーツ広場等を適切に管理運営します。</p>			
<p>■内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 市民運動公園の管理運営 ○ スポーツ広場の管理運営 ○ 武道館の管理運営 ○ 市民広場・少年広場の管理運営 ○ じゅうおう市民プールの管理運営 ○ 久慈サンピア日立スポーツセンターの管理運営（にぎわい施設課） ○ かみね市民プールの管理運営（にぎわい施設課） ○ 地域体育館の管理運営（コミュニティ推進課・女性若者支援課） ○ 会瀬青少年の家テニスコートの管理運営（女性若者支援課） 			
<p>■方向性 スポーツ施設の利便性の向上を図るため、インターネット予約システムの利用環境の向上について検討を進める。</p>			



日立市民運動公園

取組名		計画策定の視点	
No.10	地域スポーツ団体への学校体育施設の開放	ライフステージ	SDGs
		デジタル化	ひたらしさ
<p>■目的</p> <p>学校の体育施設を地域住民に開放し、身近にスポーツ・レクリエーション活動ができる場を提供する。</p>			
<p>■内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 小・中学校の体育施設（運動場・体育館・柔剣道場・プール）の開放 ○ 県教育委員会と連携した市内高等学校の体育施設開放 			
<p>■方向性</p> <p>学校施設の利用申請や鍵の貸出し等についてデジタル化を検討するなど、地域スポーツ団体が利用しやすい環境の整備を検討する。</p>			

取組名		計画策定の視点	
No.11	久慈川サイクリングコースの管理運営	ライフステージ	SDGs
		デジタル化	ひたらしさ
<p>■目的</p> <p>市民の健康・体力増進を図ることを目的に設置している久慈川サイクリングコースを、コースの立地自治体である常陸太田市、東海村と2市1村で組織している管理運営協議会により維持管理を行う。</p>			
<p>■内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ サイクリングコースの維持管理と利用促進 			
<p>■方向性</p> <p>サイクリングコースの老朽化が進んでいることから、管理運営協議会で協議し、今後の在り方について検討を進める。</p>			

取組名		計画策定の視点	
No.12	参加型のスポーツ・レクリエーション事業の推進	ライフステージ	SDGs
		デジタル化	ひたらしさ
<p>■目的 市民のスポーツ・レクリエーション活動の機会を提供するため、市民が参加することができる各種スポーツ・レクリエーション事業について、（公財）日立市スポーツ協会と連携して推進する。</p>			
<p>■内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ ぷら・スポフェスタの開催 ○ 日立KIZUNAリレーマラソンの開催 ○ 日立市パンポン大会の開催支援 ○ 日立市少年少女スポーツ育成大会の開催 			
<p>■方向性 スポーツ習慣がない市民も参加しやすい環境を提供し、スポーツへの興味関心を高めるとともに、スポーツに取り組む人が十分な成果を享受できる機会の充実を図る。</p>			



日立KIZUNAリレーマラソン

取組名		計画策定の視点	
No.13	市民スポーツ大会の開催支援	ライフステージ	SDGs
		デジタル化	ひたらしさ
<p>■目的</p> <p>広く市民が参加することができるスポーツ大会を開催する競技団体等について、（公財）日立市スポーツ協会を通じて支援する。</p>			
<p>■内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 競技ごとの市民スポーツ大会の開催 			
<p>■方向性</p> <p>市民が気軽にスポーツに取り組むことができるように、引き続き支援する。</p>			

取組名		計画策定の視点	
No.14	（公財）日立市スポーツ協会等と連携したスポーツ教室の開催	ライフステージ	SDGs
		デジタル化	ひたらしさ
<p>■目的</p> <p>（公財）日立市スポーツ協会等、市スポーツ施設指定管理者と連携して、市民のニーズに応じたスポーツ教室の開催を進める。</p>			
<p>■内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ （公財）日立市スポーツ協会による通年型スポーツクラブ（未就学児、小中学生、一般）の開催 ○ （公財）日立市スポーツ協会による短期スポーツ教室の開催 ○ 各施設の指定管理者との連携によるスポーツ教室の開催 			
<p>■方向性</p> <p>未就学児や小中学生の複合型スポーツ教室等のニーズが高まっている状況があるため、総合型地域スポーツクラブ等と連携したスポーツ教室の拡充について検討する。</p>			

取組名		計画策定の視点	
No.15	パンポンの普及推進	ライフステージ	SDGs
		デジタル化	ひたらしさ
<p>■目的 本市発祥のスポーツである「パンポン」の認知度向上及び普及に取り組み、郷土愛を育むとともに、身近な場所で開催する環境を整備し、スポーツの習慣化による市民の健康増進を図る。</p>			
<p>■内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ パンポン普及推進協議会の運営支援 ○ 日立市パンポン大会の開催支援 ○ パンポン用具の貸出 ○ 市内スポーツ施設や学校等へのパンポンコート設置、用具の配置 ○ パンポンコートの新設・増設 			
<p>■方向性 日立市パンポン大会は県外からの参加もあることから、県内外に広く周知し、パンポンを活用した交流人口の拡大等について検討する。</p>			



日立市パンポン大会

取組名		計画策定の視点	
No.16	障害者のスポーツ機会の拡充	ライフステージ	SDGs
		デジタル化	ひたらしさ
<p>■目的 障害者を対象とした「ふれあい運動会」や、障害の有無にかかわらず取り組めるスポーツ・レクリエーション「ふれあい教室」のほか、様々なスポーツイベントにおいて、障害者が参加できるスポーツの充実を図る。</p>			
<p>■内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ ふれあい運動会（障害福祉課） ○ スポーツ・レクリエーション「ふれあい教室」（障害福祉課） ○ 障害者スポーツ指導者の育成、研修会へのスポーツ推進委員の派遣 			
<p>■方向性 障害者向けのスポーツ事業のみではなく、日常的な地域スポーツクラブ活動や地域ごとに開催される既存のスポーツ事業に障害者も参加できる環境の整備を進める。</p>			

【日上市生涯学習振興計画の関連する取組】

取組名		計画策定の視点	
No.17	ラジオ体操の普及	ライフステージ	SDGs
		デジタル化	ひたらしさ
<p>■目的 「郷土の宝」であるラジオ体操の認知度向上及び普及に取り組み、郷土愛を育むとともに、ラジオ体操を日常生活に取り入れ、市民の生活習慣の改善、健康増進を図る。</p>			
<p>■内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 日上市長杯ラジオ体操コンクールの実施（生涯学習課） ○ 日上市一斉ラジオ体操（生涯学習課） ○ ラジオ体操スタンプ帳やアプリを活用したラジオ体操の年間取組日数の増加（生涯学習課） 			
<p>■方向性 ラジオ体操を身近な生活に取り入れることにより、市民の健康寿命の延伸を図る。</p>			

施策の柱Ⅱ

競技スポーツとスポーツを支える団体の育成・支援

1 競技力向上のための支援

2 スポーツを支える団体の支援

【現状と課題】

- 市の教育に関するアンケートからは、市民がウォーキングや筋力トレーニング、健康体操など個人でできるスポーツに取り組む傾向が見受けられます。「サークル・同好会に所属して活動する」割合が前回調査より10ポイント低くなっています。また、子どもたちのスポーツ活動の場であるスポーツ少年団や部活動、クラブ等での活動が、前回調査より14ポイントから21ポイント低くなっています。近年のコロナ禍の影響も考えられますが、スポーツ活動参加への意識が多様化している傾向が伺えます。
- 地元企業チームや高等学校の全国大会出場を始め、スポーツにおける市民の活躍は、まち全体を元気にするとともに、子どもたちに夢と希望を与え、活力あるまちづくりの推進につながります。プロ・トップアマチュア等のスポーツチームや企業と連携した取組を推奨することにより指導者の充実を図るなど、指導者を確保・育成していく必要があります。
- 総合型地域スポーツクラブやスポーツ少年団等のスポーツ団体のほか、（公財）日立市スポーツ協会加盟の競技団体など、市民スポーツの推進に重要な役割を担う地域スポーツ団体の活動を支援する必要があります。

【目指す5年後の姿】

- トップレベルのスポーツの観戦や、指導を受ける機会が充実しています。
- 全ての市民が、年齢や性別、障害の有無等にかかわらず、身近な場所で、仲間と交流や生きがいづくりなどそれぞれの目的に応じて、スポーツに親しむことができている。

【目標指標】 全国大会出場祝金申請実績件数

現状値（2022（令和4）年度）

138件

目標値（2028（令和10）年度）

150件

施策の方向性 1 競技力向上のための支援

競技スポーツの強化を図るため、全国大会に出場する競技者への支援や競技スポーツチームや企業と連携・協力し、選手や指導者による競技力向上のためのスポーツ教室などの取組を進めます。

【主な取組】

取組名		計画策定の視点	
No.18	スポーツスクール・アカデミー等の誘致・促進	ライフステージ	SDGs
		デジタル化	ひたちらしさ
<p>■目的</p> <p>ホームタウンチームや包括連携協定を締結したプロスポーツチーム等と協働し、運動能力の向上やより高い競技力を目指す選手を対象としたスポーツスクールやスポーツアカデミーを開催する。</p>			
<p>■内容</p> <p>○ プロスポーツチームによるスクール等の開催（施設優先使用、広報） （参考）プロスポーツによるスポーツスクール等の実施状況 鹿島アントラーズサッカーアカデミー（小中学生）／水戸ホーリーホックサッカースクール（未就学児、小学生）／ロボッツバスケットボールスクール（小中学生）</p>			
<p>■方向性</p> <p>部活動の地域移行等により、個々のニーズに合わせて選択できるスポーツクラブ、スポーツスクールが求められている。特にトップレベルを目指す選手の競技力向上について、高度な指導を提供できる環境を整備していく。</p>			

市の教育に関するアンケート調査からみる現状

スポーツを行う頻度

問：どのようなスポーツをしているか。（括弧内はH28年の結果との比較）

一般	ウォーキング	58.6% (+9.7%)	小学生	サッカー	22.7% (-0.8%)	中学生	サッカー	19.2% (+2.3%)
	筋力トレーニング	21.0% (+2.8%)		水泳	18.8% (+1.8%)		ランニング	19.2% (新規)
	健康体操	14.7% (+5.8%)		ランニング	16.1% (新規)		テニス	18.9% (-7.1%)

問：どのようにスポーツをしているか。（括弧内はH28年の結果との比較）

一般	個人で自由に活動	74.0% (+5.6%)	小学生	友達と	40.5% (新規)	中学生	部活動やクラブ	69.4% (-21.4%)
	サークルや同好会	15.1% (-11.6%)		スポーツ少年団	36.2% (-13.9%)		1人で	40.9% (+18.4%)
	民間のクラブ	6.9% (+1.6%)		家族と	28.3% (新規)		友達と	34.5% (新規)

問：どのような場所でスポーツをしているか。（括弧内はH28年の結果との比較）

一般	自宅や近所の公園	35.0% (+3.0%)	小学生	学校の施設	38.5% (+2.8%)	中学生	学校の施設	61.9% (-23.9%)
	道路・遊歩道	34.0% (+0.2%)		市の施設	34.1% (-3.9%)		自宅や近所の公園	38.4% (+19.7%)
	市の施設	29.6% (-0.2%)		自宅や近所の公園	32.5% (+30.1%)		市の施設	26.0% (-11.1%)

主な結果

一般では、ウォーキングや筋力トレーニング、健康体操など個人でできるスポーツに取り組む傾向が見受けられる。「サークル・同好会に所属して活動する」が前回調査より11.6%低くなっており、コロナ禍の影響も考えられるが、スポーツ活動の環境が多様化している傾向がうかがえる。

課題等

スポーツに対するニーズに多様化に合わせた環境づくり

取組名		計画策定の視点	
No.19	スポーツ指導者の育成	ライフステージ	SDGs
		デジタル化	ひたらしさ
<p>■目的 地域スポーツクラブ（総合型地域スポーツクラブ、スポーツ少年団等）の指導者の質の向上を図るとともに、適切な指導ができる人材を確保するための情報収集及び提供体制の充実を図る。</p>			
<p>■内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 社会体育指導者講習会の開催・充実 ○ ホームタウンチームや連携協定を締結したプロスポーツチーム等との指導者向け講習の実施 ○ 指導者バンク構築の検討 ○ 総合型地域スポーツクラブと連携した部活動、地域スポーツ指導者等の確保 			
<p>■方向性 地域スポーツクラブ（総合型地域スポーツクラブ、スポーツ少年団等）での適切な指導者の確保を支援する。</p>			

取組名		計画策定の視点	
No.20	企業スポーツとの連携、地域人材の確保	ライフステージ	SDGs
		デジタル化	ひたらしさ
<p>■目的 企業スポーツ等との連携により、各種スポーツ講習会等を開催するとともに、部活動や地域スポーツの適切な指導者を確保します。</p>			
<p>■内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 地元企業運動部によるスポーツ少年団、中学校部活動講習会の開催 ○ 企業運動部等経験者の活用の検討 ○ 地元企業運動部と市民の交流機会の創出 			
<p>■方向性 地元企業のスポーツチーム等による講習会や指導者の派遣の機会をつくることで、スポーツによる市民と企業の交流を図り、スポーツによるまちの活性化を進める。</p>			

取組名		計画策定の視点	
No.21	スポーツ全国大会等出場者への支援	ライフステージ	SDGs
		デジタル化	ひたらしさ
<p>■目的 市民の競技スポーツの振興及び活性化を図るため、全国大会出場者へ祝金を支給し激励するとともに、全国大会出場の懸垂幕の掲示等、市民への周知等を図ることで競技活動を支援する。</p>			
<p>■内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ スポーツ全国大会等出場祝金の支給 ○ スポーツ全国大会、スポーツ国際大会に出場する団体又は個人に対する支援 			
<p>■方向性 支援制度の周知を図るとともに、対象者の把握、広報に努める。</p>			

取組名		計画策定の視点	
No.22	スポーツ協会加盟団体の育成	ライフステージ	SDGs
		デジタル化	ひたらしさ
<p>■目的 市民が円滑に競技スポーツに取り組むため、スポーツ協会に加盟する競技団体の育成、活動の支援を行う。</p>			
<p>■内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 運営費の支援 ○ 講習会等の開催、情報提供等 			
<p>■方向性 スポーツ協会の加盟団体の育成により、市民の競技スポーツの振興を図る。</p>			

施策の方向性2 スポーツを支える団体の支援

地域におけるスポーツの推進や子どもたちを育むスポーツ環境の充実を図るため、（公財）日立市スポーツ協会と連携して、総合型地域スポーツクラブやスポーツ少年団、その他スポーツを支える団体への育成、支援の取組を進めます。

【主な取組】

取組名		計画策定の視点	
No.23	スポーツ少年団の運営支援	ライフステージ	SDGs
		デジタル化	ひたちらしさ
<p>■目的</p> <p>子どもたちがスポーツに親しむ習慣を身に付けるとともにスポーツを通じた人間形成に重要な役割を果たしているスポーツ少年団に対し、円滑な運営や活動場所の確保を図るための支援を推進する。</p>			
<p>■内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ スポーツ少年団本部の運営支援 ○ 活動場所の確保（市スポーツ施設での練習時の使用料免除、学校体育施設開放等） 			
<p>■方向性</p> <p>スポーツ少年団は、少子化により団員数・団数が減少している一方で部活動の地域移行により、中学生団員数の増加が見込まれることから、指導者や活動場所の確保について併せて検討する。</p>			

総合型地域スポーツクラブとは！？

総合型地域スポーツクラブは、人々が、身近な地域でスポーツに親しむことができるスポーツクラブで、子どもから高齢者まで（多世代）、様々なスポーツを愛好する人々が（多目的）、初心者からトップレベルまで、それぞれの志向、レベルに合わせて参加できる（多志向）、という特徴をもち、地域住民により自主的・主体的に運営されるスポーツクラブです。

平成7年度から国による育成が開始され、それぞれの地域において、スポーツの振興やスポーツを通じた地域づくりなどに向けた多様な活動を展開し、地域スポーツの担い手としての役割や地域コミュニティの核としての役割を果たしています。

本市では、現在4つの総合型地域スポーツクラブが活動しています。

クラブ名	設 立	所 在
NPO法人滑川ファミリースポーツクラブ	平成18年4月	滑川町1-21-1（滑川交流センター内）
NPO法人塙山コミュニティクラブ	平成18年5月	金沢町2-11-5（塙山交流センター内）
NPO法人UPOPO十王スポーツ文化クラブ	平成24年5月	十王町友部1936-1（十王スポーツ広場内）
NPO法人ひたちみなみスポーツクラブ	平成30年3月	久慈町7-1-1（南部支所多目的室内）

取組名		計画策定の視点	
No.24	総合型地域スポーツクラブの育成	ライフステージ	SDGs
		デジタル化	ひたらしさ
<p>■目的</p> <p>(公財) 日立市スポーツ協会と連携を図りながら総合型地域スポーツクラブの支援、育成を行い、地域におけるスポーツの推進を図る。</p>			
<p>■内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 総合型地域スポーツクラブの自立した運営への支援 ○ 総合型地域スポーツクラブへの活動場所や指導者の確保等多角的な支援 ○ 市内総合型地域スポーツクラブの情報交換等の実施 			
<p>■方向性</p> <p>総合型地域スポーツクラブは新型コロナウイルス感染症の拡大の影響もあり、会員数が減少している。財政基盤の確立や指導者の確保が大きな課題となっており、多角的な支援を検討する。</p>			

取組名		計画策定の視点	
No.25	スポーツ推進委員協議会の活動支援	ライフステージ	SDGs
		デジタル化	ひたらしさ
<p>■目的</p> <p>地域スポーツ活動のコーディネーター役として期待されるスポーツ推進委員の資質の向上のため、国・県・市等スポーツ推進委員協議会が実施する研修会等にスポーツ推進委員を派遣するとともに、協議会の活動を支援する。</p>			
<p>■内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 各種スポーツ大会への委員の派遣 ○ 各種研修会等への委員の派遣及び研修の充実 ○ 日立市スポーツ推進委員協議会等の運営支援 			
<p>■方向性</p> <p>スポーツ推進委員の活動の周知及び地域スポーツ情報を発信するため、SNS等を活用した協議会の情報発信等を支援する。</p>			

取組名		計画策定の視点	
No.26	(公財) 日立市スポーツ協会の活動支援	ライフステージ	SDGs
		デジタル化	ひたちらしさ
<p>■目的 市民のスポーツ・レクリエーション活動の振興を図るため、スポーツ・レクリエーション大会の開催、スポーツの普及、加盟団体やスポーツ少年団の育成、スポーツ教室の開催等を行う（公財）日立市スポーツ協会の活動を支援する。</p>			
<p>■内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ スポーツ少年団本部、パンポン普及促進協議会の運営 ○ スポーツ指導者養成事業の支援 ○ 加盟団体、各地区ファミリーレクリエーションの運営支援 ○ 各種市民スポーツ大会の開催支援 			
<p>■方向性 スポーツ協会加盟団体を育成するとともに、団体間の総合調整機能が発揮できるよう、（公財）日立市スポーツ協会との協議・検討を続ける。</p>			



(公財) 日立市スポーツ協会のスポーツ指導者養成事業

【日上市学校教育振興計画の関連する取組】

取組名		計画策定の視点	
No.27	部活動の段階的な地域移行	ライフステージ	SDGs
		デジタル化	ひたらしさ
<p>■目的 中学生のスポーツ等の環境について、国・県が示した改革推進期間である令和7年度末を目途に、休日における部活動を学校単位から地域単位での活動に移行し、将来にわたり生徒がスポーツ等に継続して親しむことができる機会を確保する。</p>			
<p>■内容 ○ 市内を3ブロック（北部ブロック・中部ブロック・南部ブロック）に分け、1ブロックごとに1種目当たり1団体を目安に地域移行を推進（指導課）</p>			
<p>■方向性 これまでの実証内容（予算、人員配置等）等を参考に、部活動の地域移行を検討する。</p>			



総合型スポーツクラブと連携した中学校部活動の指導の様子

施策の柱Ⅲ

スポーツを通じた地域の活性化

1 スポーツを通じたにぎわいづくり

2 スポーツに関する情報提供の充実

【現状と課題】

- 市の教育に関するアンケート調査では、一般、小中学生ともに9割近くがスポーツをしていて満足と回答しています。一方で、満足していないと回答した主な理由として、一般では「利用料金が高い」「施設の数が足りない」など施設に関することが多く、小中学生では、「指導者が怖い」「人間関係が嫌だ」など人間関係に関するものが多くなりました。

また、スポーツ振興に必要な今後の取組としては、小中学生は、施設整備等ハード面での要望が多くなっていますが、一般では、施設整備に加えて「プロなどトップレベルのスポーツの観戦機会の拡大」や「各種スポーツ大会、イベント、教室の開催」など、ソフト面での充実を要望する回答も多くなりました。

- スポーツを観光資源としたスポーツツーリズムやスポーツチームを通じた情報発信の取組など、まちづくりにおけるスポーツの果たす役割は、ますます大きなものとなっています。交流人口の拡大を図り、まちの活性化につなげていくためには、プロやトップアマチュア、企業スポーツチーム、その他関係団体と連携を強化し、より多くのスポーツイベントの開催や、スポーツ合宿の誘致などの取組を推進していく必要があります。
- 誰もが、「する」「みる」「ささえる」という様々な参画を通じてスポーツに取り組むことができるよう、市内で開催されるスポーツイベントを始め、各種スポーツ教室の開催など、スポーツに関する様々な情報の効果的な発信に取り組むことが必要です。

【目指す5年後の姿】

- スポーツ大会や合宿に市外から多くの方が訪れ、スポーツを通じた交流が広がっています。
- スポーツに関する様々な情報をいつでも容易に得ることができます。

【目標指標】 スポーツ合宿によるスポーツ施設利用件数

現状値（2022（令和4）年度）

138件

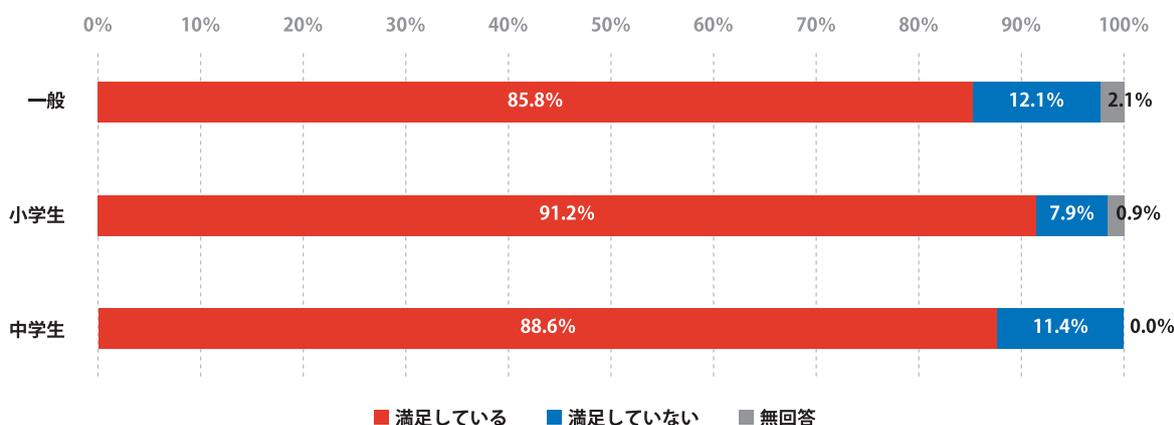
目標値（2028（令和10）年度）

150件

市の教育に関するアンケート調査からみる現状

スポーツをしているの満足感

問：スポーツをしていて、「満足」しているか。



主な結果	課題等
<p>一般、小中学生ともに、9割近くが「満足している」と回答した。</p> <p>なお、<u>満足をしていないと回答した主な理由</u>については、一般では「<u>利用料金が高い</u>」、「<u>施設の数が足りない</u>」など、施設に関することが多く、小中学生では「<u>指導者が怖い</u>」、「<u>人間関係が嫌だ</u>」など、人間関係に関することが多くなった。</p>	<p>地域バランスに配慮したスポーツ施設の整備</p> <p>スポーツ指導者の指導力向上研修等の充実</p>

満足していない理由		割合 (H28との比較)
	理由	
一般	利用料金が高い	31.4% (+10.8%)
	施設の数が足りない	29.4% (新規)
	施設が遠い	27.5% (-14.5%)
小学生	指導者が怖い	23.8% (+6.0%)
	指導者の考えが合わない	21.4% (新規)
	人間関係が嫌だ	21.4% (+5.0%)
中学生	人間関係が嫌だ	50.0% (+13.5%)
	指導者の考えが合わない	21.9% (新規)
	指導者が怖い	15.6% (+11.5%)

施策の方向性 1 スポーツを通じたにぎわいづくり

スポーツを通じた地域の活性化を図るため、全国規模の大会や大型イベント等の開催のほか、フルマラソン大会の開催、スポーツ合宿の誘致等の取組を進めます。

【主な取組】

取組名		計画策定の視点	
No.28	フルマラソンの開催による交流人口の拡大	ライフステージ	SDGs
		デジタル化	ひたちらしさ
<p>■目的 市民の健康・体力増進のための機会を提供し「スポーツのまち日立」を目指すとともに、スポーツを活用したまちおこし、秋冬最大のスポーツイベントとしてまちのにぎわいを創出し本市経済の活性化を図る。</p>			
<p>■内容 ○ フルマラソン大会「ひたちシーサイドマラソン」の開催</p>			
<p>■方向性 フルマラソンの開催により、生涯スポーツ環境づくりを始め、秋冬最大のスポーツイベントとしてのにぎわいの創出や交流人口の拡大、経済の活性化など「スポーツを活用したまちおこし」の実現に向け取り組む。</p>			

取組名		計画策定の視点	
No.29	スポーツツーリズムの推進	ライフステージ	SDGs
		デジタル化	ひたらしさ
<p>■目的</p> <p>市内のスポーツ施設を活用し、市外からのスポーツ合宿、大会等を誘致することにより、スポーツを通じた市の活性化を図る。</p>			
<p>■内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ スポーツ合宿誘致における公共スポーツ施設優先予約の実施 ○ 市内宿泊施設等との連携・協働 ○ スポーツツーリズムに関する周知、広報に向けたPR活動 ○ 大学等の運動部・サークルの定期的な合宿誘致の検討 			
<p>■方向性</p> <p>市内ホテル・旅館等と連携した合宿誘致は、一時的にコロナ禍で減少したが、徐々に回復している。一方で、合宿利用により市民の施設利用の機会に影響が出ないように一定の配慮が求められている。また、合宿のほか、市民が観戦できる大会や試合の更なる誘致も検討する。</p>			

取組名		計画策定の視点	
No.30	市民運動公園の活用推進	ライフステージ	SDGs
		デジタル化	ひたらしさ
<p>■目的</p> <p>池の川さくらアリーナや再整備する野球場等、市民運動公園を拠点として、人の流れを創出し、市内外の人々の交流施設として積極的な活用を図る。</p>			
<p>■内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ プロスポーツチームのホームゲーム開催（茨城ロボッツ、アストロプラネッツ等） ○ プロスポーツチームによるイベントの誘致（水戸ホーリーホック等） ○ トップアマチュアスポーツの試合誘致（日立サンネクサス茨城、日立Astemoリヴァーレ） ○ 企業スポーツ等の大会誘致（都市対抗野球予選、日本卓球リーグ） ○ 文化イベントの誘致（ライブツアー、コンサート等） 			
<p>■方向性</p> <p>様々なスポーツ大会の開催によるにぎわいや交流を促進する。また、試合誘致や興行等体育施設を活用した様々な事業展開についても検討を進める。</p>			

取組名		計画策定の視点	
No.31	日立さくらロードレースの開催	ライフステージ	SDGs
		デジタル化	ひたちらしさ
<p>■目的 「日本のさくらの名所100選」のひとつである本市の桜の下、競技者から市民ランナーまでがランニングを楽しみ、健康づくりと元気なまちづくりに寄与することを目的に、日立さくらロードレースを開催する。</p>			
<p>■内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 日立さくらロードレースの開催 ○ インターネットを活用したエントリー受付、情報の発信の推進 ○ 市民ボランティアの活動機会の創出 			
<p>■方向性 安全・安心かつ効率的な運営体制に向けて、（公財）日立市スポーツ協会と連携しながら検討を進める。</p>			

取組名		計画策定の視点	
No.32	J A B A 日立市長杯選抜野球大会の開催	ライフステージ	SDGs
		デジタル化	ひたちらしさ
<p>■目的 社会人野球の最高峰である日本選手権への出場をかけて地元企業チーム「日立製作所」を始め、全国の地区連盟から推薦されたチームによるトップレベルの試合を、市民が観戦する機会として開催する。</p>			
<p>■内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ J A B A 日立市長杯選抜野球大会の開催 ○ 試合のインターネット配信、電子チケットの導入等デジタル化の推進 ○ 市民ボランティアの活動機会の創出 			
<p>■方向性 「みる」スポーツの多様化を図るため、インターネットを活用した配信について検討を進める。</p>			

施策の方向性2 スポーツに関する情報提供の充実

ホームチームや包括連携協定を締結した企業・団体、プロスポーツチーム等と連携し、スポーツへの興味関心を高めるための、情報発信を進めます。

【主な取組】

取組名		計画策定の視点	
No.33	スポーツによる健康増進、 スポーツを科学する取組の推進と情報提供	ライフステージ	SDGs
		デジタル化	ひたらしさ
■目的 包括連携協定等を締結した企業やプロスポーツチーム等と連携し、効果的なスポーツの実施などの科学的な情報を発信し、スポーツへの興味関心を高め、市民スポーツの質の向上を目指す。			
■内容 ○ 効果的な散歩やウォーキングなどの情報をホームページやSNS等を活用し効率的に情報発信する。			
■方向性 多くの市民が、健康増進を目指して散歩やウォーキングなどに取り組んでいることから、より効果的で適切な運動につながるような科学的情報を提供することを検討する。			

取組名		計画策定の視点	
No.34	プロスポーツ等と連携した多様な情報の発信	ライフステージ	SDGs
		デジタル化	ひたらしさ
■目的 包括連携協定等を締結した企業やプロスポーツチーム等と連携し、市が行うスポーツイベントや市の魅力などについての情報発信を行う。			
■内容 ○ プロスポーツ等の試合会場での本市PRイベント等の実施 ○ プロスポーツチーム等の広報誌、SNSを活用した情報発信			
■方向性 現在、プロスポーツ等の試合会場での観光・物産PRを行っているが、各チームは試合会場のみではなくSNS等様々な広報媒体を有しており、これらと連携することで更なるPR効果が期待できる。また、試合会場等には市民も多く訪れることから、市民向けのPRの機会としてもその活用を促進する。			

取組名		計画策定の視点	
No.35	ホームページ・広報誌等を通じたスポーツ情報の発信	ライフステージ	SDGs
		デジタル化	ひたちらしさ
<p>■目的 スポーツ情報の発信により、スポーツへの関心や意識を高めるため、インターネットやSNS、広報誌等を活用し、多角的な情報発信を行う。</p>			
<p>■内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ ホームページの充実、ひたちナビの活用 ○ (公財) 日立市スポーツ協会が運営するスポーツポータルサイト「ふら・スポひたち」の活用 ○ 市報、(公財) 日立市スポーツ協会、スポーツ推進委員等が発行する広報誌の活用 			
<p>■方向性 SNSを含めた様々な形態の活用により、リアルタイムでの幅広い情報発信を検討する。</p>			

取組名		計画策定の視点	
No.36	スポーツの功労者及び競技優秀者の表彰	ライフステージ	SDGs
		デジタル化	ひたちらしさ
<p>■目的 永年にわたり本市のスポーツ振興に貢献した功労者や、スポーツ全国大会等で活躍した競技優秀者を表彰し、周知することで、市民のスポーツに対する意識の向上を図る。</p>			
<p>■内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ (公財) 日立市スポーツ協会 スポーツの功労者表彰 ○ (公財) 日立市スポーツ協会 スポーツ競技優秀者表彰 			
<p>■方向性 表彰対象者の把握拡大に努めるとともに、表彰の周知・広報の拡大に努める。</p>			

1 誰もが安心して利用できる施設の整備

2 競技スポーツの拠点となる施設の整備

【現状と課題】

- 市民アンケートの結果から、公共スポーツ施設の利用者は、自宅から近く気軽に利用できる施設を希望しています。地域バランスを考慮してスポーツ施設を整備することで、移動時間が節約でき、より多くの時間をスポーツに充てることができます。
- 公共スポーツ施設の利用状況や市民アンケートの結果等から、利用施設の予約が取りにくいなど、市民のニーズに応えることができていない施設があるため、既存施設の機能拡充等を含め、整備を進める必要があります。
- 全ての市民が日常的に、安全、安心、快適にスポーツを楽しむことができるよう、既存施設のバリアフリー化を含め、環境整備を進める必要があります。また、トップレベルのスポーツや各種大会の誘致など、様々な利用に対応できるよう、施設の充実が求められています。

【5年後に目指す姿】

- 「生涯スポーツ社会実現に向けたスポーツ環境の充実」を具現化するため、地域バランスを考慮して、誰もがいつでもスポーツを楽しむ空間・場所が充実しています。

※ 日立市スポーツ施設整備計画（75ページ参照）

本市の公共スポーツ施設の具体的な整備計画として、2020（令和2）年度に策定しました。

年次計画については、今後も随時見直しを行いながら、計画的で効率的な施設整備を進めます。

施策の方向性 1 誰もが安心して利用できる施設の整備

地区、地域の交流拠点であり、多様な利用ができるスポーツ広場の機能を拡充するとともに、地域バランスを考慮した整備を進めます。スポーツ広場がなく体育館が少ない南部地区に、日常的にスポーツを楽しむことができる複数の機能を有するスポーツ広場の整備を進めます。

【主な取組】

取組名		計画策定の視点	
No.37	南部地区への新たなスポーツ施設の整備 (適正な整備と地域バランスを踏まえた配置)	ライフステージ	SDGs
		デジタル化	ひたらしさ
<p>■目的 市民のスポーツ環境の向上を図ることを目的に、市民が身近な場所でスポーツに取り組むことができるよう、スポーツ広場等の整備を検討する。</p>			
<p>■内容 ○ (仮称) 南部地区スポーツ広場の整備の検討</p>			
<p>■方向性 南北に長い市域にバランスよくスポーツ施設を配置することにより、効率よくスポーツを楽しむことができる環境整備に努める。施設整備に当たっては、「拠点スポーツ施設」「地区スポーツ施設」「身近なスポーツ施設」など、施設の位置付けと整備目的を明確にしながら進める。</p>			

取組名		計画策定の視点	
No.38	グラウンド芝生化の推進（スポーツ広場、市民広場などグラウンドの芝生化）	ライフステージ	SDGs
		デジタル化	ひたちらしさ
<p>■目的</p> <p>市スポーツ施設のグラウンドを芝生化することにより、安全かつ快適にスポーツに取り組める環境を市民に提供する。</p>			
<p>■内容</p> <p>○ スポーツ広場等の利用に適したグラウンドの芝生化（天然芝生・人工芝生）</p>			
<p>■方向性</p> <p>安全かつ快適にスポーツに取り組む環境を提供するため、使用頻度、利用種目等に応じて、天然芝生又は人工芝生の整備を推進する。</p>			



全面人工芝生のグラウンドでオープンした会瀬スポーツ広場

取組名		計画策定の視点	
No.39	施設のバリアフリー化等の環境整備 (施設内外のバリアフリー化)	ライフステージ	SDGs
		デジタル化	ひたらしさ
<p>■目的 年齢や性別、障害の有無にかかわらず安全・安心に利用できるよう、ユニバーサルデザインに配慮し、バリアフリー化を図るなどスポーツ施設の利用環境の向上を図る。</p>			
<p>■内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 老朽化した施設の改修に合わせたバリアフリー化の検討 ○ 手すりやスロープの設置、車いす等利用者に配慮した整備の検討 			
<p>■方向性 施設の老朽化、耐震化及び長寿命化による改修に合わせて、ユニバーサルデザインに配慮した施設改修に努める。</p>			

取組名		計画策定の視点	
No.40	衛生的で安心して使用できる トイレの整備・更新	ライフステージ	SDGs
		デジタル化	ひたらしさ
<p>■目的 老朽化しているスポーツ施設のトイレについて、バリアフリー化等ユニバーサルデザインに配慮し、衛生的で安心して使用できるよう整備・更新を進める。</p>			
<p>■内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ スポーツ施設のトイレの改修・更新 ○ スポーツ施設の新たなトイレ整備の検討 			
<p>■方向性 老朽化したトイレについて、財源確保に努めながら計画的に改修を進める。</p>			

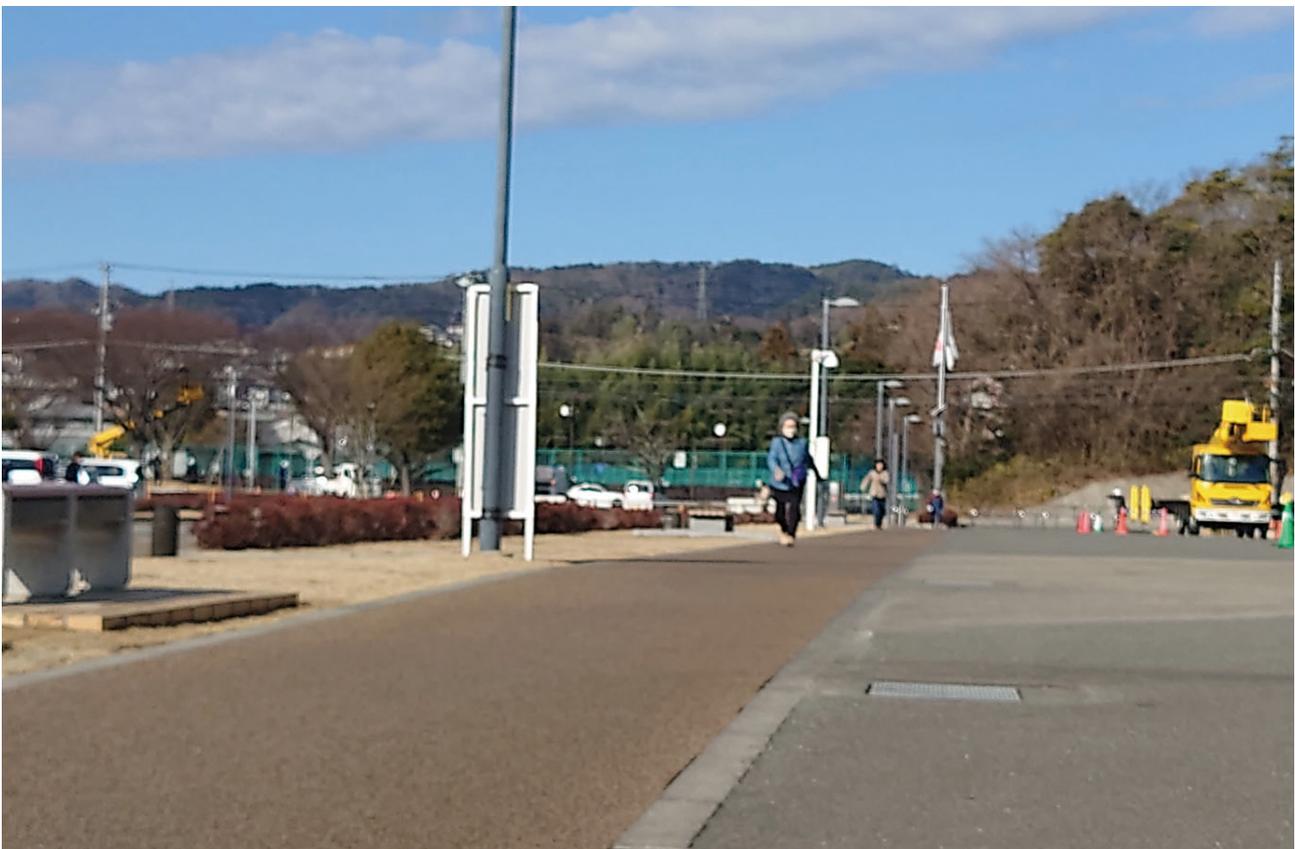
取組名		計画策定の視点	
No.41	空調換気設備の設置等利用環境の向上	ライフステージ	SDGs
		デジタル化	ひたちらしさ
<p>■目的 熱中症対策、感染症対策、その他利用環境を改善することで、安心・安全なスポーツ施設の利用環境の向上を図るため、空調換気設備や照明設備等について検討を進める。</p>			
<p>■内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 体育館、武道館等の熱中症対策のための空調換気設備の設置 ○ 照明設備のLED化、照明設備の新設の検討 ○ 施設の規模に応じた駐車スペースの確保 			
<p>■方向性 空調換気設備やLED照明が整備されていない施設、駐車場台数が十分でない施設について、財源確保に努めながら計画的な整備を進める。</p>			

取組名		計画策定の視点	
No.42	老朽化した施設の改修・長寿命化対策	ライフステージ	SDGs
		デジタル化	ひたちらしさ
<p>■目的 老朽化した施設の長寿命化を図るとともに、バリアフリー化等ユニバーサルデザインに配慮し、年齢や性別、障害の有無にかかわらず安心・安全に利用できるよう、スポーツ施設の整備を進める。</p>			
<p>■内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ スポーツ施設の長寿命化及び耐震化を図るための計画的な改修 ○ スポーツ広場ランニングコース等の改修 ○ スポーツ広場テニスコート等人工芝生の更新 ○ 屋内スポーツ施設の床面塗装改修 ○ じゅうおう市民プールの在り方の検討 			
<p>■方向性 利用者が安全・安心に施設を利用できる環境を整えるとともに、施設内での事故を防止するため、財源確保に努めながら、老朽化した施設の改修、長寿命化及び耐震化を図るための整備を検討する。</p>			

取組名		計画策定の視点	
No.43	若者が集い交流を図ることができる施設整備の検討	ライフステージ	SDGs
		デジタル化	ひたらしさ
<p>■目的</p> <p>東京2020オリンピックを契機として、スケートボードやBMX、スポーツライミング等が実施できる施設のニーズが若者の間に高まっていることから、これらの施設整備について検討する。</p>			
<p>■内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ アーバンスポーツの実施できる場所の検討 ○ 既存施設へのスケートボードセクション等の設置の検討 			
<p>■方向性</p> <p>既存施設のリニューアルや公共施設跡地の活用を含めて検討を進める。</p>			

取組名		計画策定の視点	
No.44	競泳等の競技大会が実施できるプール施設の整備検討	ライフステージ	SDGs
		デジタル化	ひたらしさ
<p>■目的</p> <p>年間を通して利用できるとともに、競泳等の競技大会が実施できるプールの整備について検討する。</p>			
<p>■内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 屋内50メートルプール施設の整備検討 			
<p>■方向性</p> <p>整備地、規模、財源等に加えて、小・中学校のプール授業の今後の実施方法等を踏まえた整備について検討する。</p>			

取組名		計画策定の視点	
No.45	超高齢社会に対応した やさしく使いやすい施設の整備	ライフステージ	SDGs
		デジタル化	ひたらしさ
<p>■目的</p> <p>高齢化の進行を踏まえ、家族や友達との交流を楽しみながら、健康の維持増進を図り、幸せに暮らすことができるよう、身近な場所で安全で安心して利用できるスポーツ施設の整備を検討する。</p>			
<p>■内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ グラウンドゴルフ等を楽しめる公共施設の芝生化 ○ ランニング・ウォーキングコースの整備 ○ スポーツ施設内外のバリアフリー化 ○ いばらきヘルスロードの推進（健康づくり推進課） 			
<p>■方向性</p> <p>「交流」「安全安心」「いつでも気軽に」をキーワードとして、整備を検討する。</p>			



市民運動公園に整備されているランニングコース

施策の方向性2 競技スポーツの拠点となる施設の整備

市民運動公園を核として、多くの市民がスポーツに取り組むとともに、全国規模の大会やプロなどトップレベルの試合を観戦し、大型イベント等を通じて憩い、集うことができる拠点スポーツ施設の整備を進めます。

【主な取組】

取組名		計画策定の視点	
No.46	市民運動公園野球場の再整備	ライフステージ	SDGs
		デジタル化	ひたらしさ
<p>■目的 老朽化した野球場をユニバーサルデザイン及び公認野球規則に対応した施設に改築し、すべての市民が利用しやすい施設として再整備するとともに、野球場に合わせて市民が気軽に立ち寄れる（仮称）ふれあい広場やウォーキングコース等を整備し、市民運動公園の環境の充実を図る。</p>			
<p>■内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 野球場の再整備（ユニバーサルデザインへの対応公認規則対応の競技場整備、夜間照明設備の設置等） ○ （仮称）ふれあい広場、ウォーキングコース等の整備 			
<p>■方向性 少年団から社会人まで野球が盛んな本市の特徴を踏まえ、利用環境の整備を図るとともに、プロ野球等、トップレベルの大会誘致を目指す。また、市民が気軽に立ち寄ることができるよう交流拠点としての機能も整備し、本市の居住環境の向上を図る。</p>			

取組名		計画策定の視点	
No.47	市民運動公園施設の利用環境の向上	ライフステージ	SDGs
		デジタル化	ひたちらしさ
<p>■目的 スポーツの拠点として、トップレベルスポーツ、各種大会の誘致、市民スポーツの推進のため、必要な整備を図り、利用環境の向上、施設の長寿命化対策により安全・安心な総合公園づくりを行う。</p>			
<p>■内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 池の川さくらアリーナの床面塗装による長寿命化 ○ 市民運動公園テニスコートの人工芝生更新 ○ 市民運動公園テニスコートの夜間照明のLED化の検討 			
<p>■方向性 池の川さくらアリーナ、テニスコート等の施設について、財源を確保しながら計画的な整備を進める。また、市民運動公園のイベント時の渋滞緩和対策についても検討する。</p>			

取組名		計画策定の視点	
No.48	陸上競技場の活用を図るための整備の検討	ライフステージ	SDGs
		デジタル化	ひたちらしさ
<p>■目的 第三種公認である陸上競技場は、陸上競技のみではなく、観覧席を有しているサッカーやラグビーフットボールの市内唯一の拠点施設でもあるため、陸上競技場としての公認整備に併せて、サッカー・ラグビーフットボールの競技場としての整備も検討する。</p>			
<p>■内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 陸上競技場の整備検討（冬芝オーバーシード、スコアボードの改修等） ○ 観覧席等のバリアフリー化の検討 			
<p>■方向性 県北地区で唯一の公認陸上競技場であるとともに、観覧席を有する唯一のサッカー・ラグビーフットボールの拠点施設でもあるため、より多目的に活用するための整備とその財源確保について検討する。</p>			

第 5 章

參考資料

1

計画の策定経過

■ 検討状況

- 課長等で構成される検討会議、係長等で構成されるワーキング会議における計画の内容検討（2022（令和4）年6月～2023（令和5）年1月）
- 日立市の教育に関するアンケート調査（2022（令和4）年11月）
- ※ 2023（令和5）年3月に日立市教育振興基本計画の改訂方法を見直し、「学校教育」「生涯学習」「スポーツ」の分野ごとに個別の計画として策定する方針を決定。

年	月日	策定委員会	市・教育委員会	関係機関・市民等
2023（令和5）年	4月19日		教育委員会4月定例会協議会 ・計画改訂方針の見直しについて	
	5月31日			議会教育福祉委員会 ・計画改訂方針の見直しについて ・アンケート調査結果について
	6月9日	第1回策定委員会 ・（仮称）日立市スポーツ振興計画の策定について ・現計画の推進状況について ・日立市スポーツに関するアンケート結果について		
	7月14日	第2回策定委員会 ・（国）第3期スポーツ基本計画について （県）いばらき教育プランについて ・アンケート調査からみる今後の課題について ・計画の骨子（案）について ・計画の施策の体系（案）について		
	8月31日		教育委員会8月定例会協議会 ・計画の骨子（案）について ・施策の体系（案）について	
	9月14日			議会教育福祉委員会 ・計画の骨子（案）について ・施策の体系（案）について

年	月日	策定委員会	市・教育委員会	関係機関・市民等
2023（令和5）年	10月12日	第3回策定委員会 ・推進テーマと基本方針について ・目指す姿と策定の視点について ・計画に搭載する主な取組（案）について ・計画の目次（案）について		
	11月22日			意見聴取開始 （～12月3日まで）
	11月22日			議会教育福祉委員会 ・計画（素案）の市民への意見聴取実施について ・計画（素案）について
	11月30日		教育委員会11月定例会協議会 ・計画（素案）の市民への意見聴取実施について ・計画（素案）について	
	12月21日	第4回策定委員会 ・計画（素案）の市民への意見聴取結果について ・計画（案）について		
2024（令和6）年	1月25日		教育委員会1月定例会協議会 ・計画（素案）の市民への意見聴取結果について	
	2月21日			議会教育福祉委員会 ・計画（素案）の市民への意見聴取結果について ・計画の策定について
	2月28日		教育委員会2月定例会 ・計画について議決	

※ 策定委員会：日立市スポーツ振興計画策定委員会

2

策定委員会

(1) 日立市スポーツ振興計画策定委員会 委員名簿

No.	氏名	所属団体等	備考
1	日下 裕弘	茨城大学 名誉教授	委員長
2	大場 進一	日立市コミュニティ推進協議会会員	
3	及川 謙治	日立市スポーツ少年団本部副本部長 日立市ラジオ体操普及協会会長	副委員長
4	石井 謙二	日立市スポーツ推進委員協議会会長	
5	高田美保子	特定非営利活動法人ひたちみなみスポーツクラブ クラブマネージャー	
6	清水 透	(公財) 日立市スポーツ協会専務理事	
7	瀬田 元吾	株式会社 フットボールクラブ 水戸ホーリーホック 事業戦略執行役員	
8	井上 早紀	ミズノスポーツサービス株式会社 池の川さくらアリーナ支配人	
9	竹下 浩一	大塚製薬株式会社 大宮支店 水戸出張所 課長補佐	
10	長谷川美和	パラスポーツ指導員 人権擁護委員	
11	尾又さくら	ひたち若者かがやき会議 コアメンバー	
12	安藤 綺羅	市民公募委員	
13	平塚 竜馬	市民公募委員	
14	宮内 雅弘	日立市教育委員会教育部長	

※所属団体等は、選出時点のもの

(2) 日立市スポーツ振興計画策定委員会 設置要項

(目的)

第1条 日立市スポーツ振興計画の内容を多角的及び総合的に検討するため、日立市スポーツ振興計画策定委員会（以下「委員会」という。）を設置する。

(所掌事項)

第2条 委員会は、次に掲げる事項を所掌する。

- (1) 本市のスポーツの振興に係る協議に関すること
- (2) (仮称)日立市スポーツ振興計画の策定に関すること
- (3) その他委員会が必要と認める事項

(組織)

第3条 委員会は、20人以内で組織する。

2 委員は、次に掲げる者のうちから教育長が委嘱し、又は任命する。

- (1) 学識経験者
- (2) スポーツ関係者
- (3) 各種団体の関係者
- (4) 公募による者
- (5) 市職員
- (6) その他教育長が必要と認める者

(任期)

第4条 委員の任期は、委嘱又は任命の日から令和6年3月31日までとする。

(委員長及び副委員長)

第5条 委員会に委員長及び副委員長を置く。

2 委員長及び副委員長は、委員の互選とする。

3 委員長は、委員会を代表し、会務を総理する。

4 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故あるとき又は欠けたときは、その職務を代理する。

(会議)

第6条 会議は、必要に応じ委員長が招集する。

2 会議は、委員の過半数の出席がなければ開くことができない。

- 3 会議の議事は、出席者の過半数の同意をもって決し、可否同数のときは、委員長の決するところによる。
- 4 委員が会議に出席できないときは、当該委員に代わって、代理の者が出席することができる。
- 5 委員長は、必要に応じ委員以外の者の出席を求め、意見を聞くことができる。

(事務局)

第7条 委員会の事務局は、教育委員会スポーツ振興課に置く。

(その他)

第8条 この要項に定めるもののほか、委員会の運営について必要な事項は、委員長が委員会に諮って定める。

附 則

- 1 この要項は、令和5年6月9日から適用する。
- 2 第6条第1項の規定にかかわらず、この要項の適用後、最初に開催される会議は、教育長が招集する。

3

目標指標一覧

施策の柱Ⅰ

市民の誰もが生涯にわたって楽しめるスポーツの推進

【目標指標】 スポーツ施設利用者数

現状値（2022（令和4）年度）

836千人

目標値（2028（令和10）年度）

1,200千人

施策の柱Ⅱ

競技スポーツとスポーツを支える団体の育成・支援

【目標指標】 全国大会出場祝金申請実績件数

現状値（2022（令和4）年度）

138件

目標値（2028（令和10）年度）

150件

施策の柱Ⅲ

スポーツを通じた地域の活性化

【目標指標】 スポーツ合宿によるスポーツ施設利用件数

現状値（2022（令和4）年度）

16件

目標値（2028（令和10）年度）

50件

4

主な取組一覧

施策の柱	No.	取組名	ページ	ライフステージ	SDGs	デジタル化	ひたすらしき
Ⅰ 市民の誰もが生涯にわたって楽しめるスポーツの推進	施策の方向性1 地域と連携したスポーツへの参加機会の充実						
	1	プレゴールデンエイジの育成	26	○			○
	2	関係団体との連携によるユニバーサルスポーツ等の推進	27	○	○		
	3	地域スポーツクラブと連携した身近なスポーツの推進	28	○	○		○
	4	スポーツ推進委員による生涯スポーツの推進	28	○	○		
	5	小学生への学校プールの開放	29	○	○		○
	施策の方向性2 スポーツを楽しむ環境の充実						
	6	スポーツボランティアの参加機会の充実	30	○	○	○	○
	7	DXを活用したスポーツへの参加機会の提供	30	○	○	○	
	8	[拡充] 市民とプロスポーツ選手等との交流・協働	31		○	○	○
	9	スポーツ施設の適切な管理運営	32	○		○	
	10	地域スポーツ団体への学校体育施設の開放	33	○		○	
	11	久慈川サイクリングコースの管理運営	33	○			○
	12	参加型のスポーツ・レクリエーション事業の推進	34	○			○
	13	市民スポーツ大会の開催支援	35	○	○		
	14	(公財) 日立市スポーツ協会等と連携したスポーツ教室の開催	35	○	○		
	15	パンポンの普及推進	36	○			○
16	障害者のスポーツ機会の拡充	37	○	○			
17	ラジオ体操の普及	37	○	○		○	
Ⅱ 競技スポーツとスポーツを支える団体の育成・支援	施策の方向性1 競技力向上のための支援						
	18	[拡充] スポーツスクール・アカデミー等の誘致・促進	39	○		○	○
	19	スポーツ指導者の育成	40	○			○
	20	企業スポーツとの連携、地域人材の確保	40	○			○
	21	スポーツ全国大会等出場者への支援	41	○			○
	22	スポーツ協会加盟団体の育成	41	○			
	施策の方向性2 スポーツを支える団体の支援						
	23	スポーツ少年団の運営支援	42	○			○
	24	総合型地域スポーツクラブの育成	43	○			○
	25	スポーツ推進委員協議会の活動支援	43	○	○	○	
26	(公財) 日立市スポーツ協会の活動支援	44	○	○		○	
27	部活動の段階的な地域移行	45	○	○		○	

施策の柱	No.	取組名	ページ	ライフステージ	SDGs	デジタル化	ひたすらしき
Ⅲ スポーツを通じた地域の活性化	施策の方向性1 スポーツを通じたにぎわいづくり						
	28	[新規] フルマラソンの開催による交流人口の拡大	49			○	○
	29	スポーツツーリズムの推進	50			○	○
	30	市民運動公園の活用推進	50				○
	31	日立さくらロードレースの開催	51			○	○
	32	JABA日立市長杯選抜野球大会の開催	51			○	○
	施策の方向性2 スポーツに関する情報提供の充実						
	33	スポーツによる健康増進、スポーツを科学する取組の推進と情報提供	52	○	○	○	
	34	[新規] プロスポーツ等と連携した多様な情報の発信	52	○	○	○	○
	35	ホームページ・広報誌等を通じたスポーツ情報の発信	53	○	○	○	
	36	スポーツの功労者及び競技優秀者の表彰	53	○			
	Ⅳ スポーツ施設の多様な整備	施策の方向性1 誰もが安心して利用できる施設の整備					
37		南部地区への新たなスポーツ施設の整備 (適正な整備と地域バランスを踏まえた配置)	55	○	○		○
38		グラウンド芝生化の推進 (スポーツ広場、市民広場などグラウンドの芝生化)	56	○	○		○
39		施設のバリアフリー化等の環境整備 (施設内外のバリアフリー化)	57	○	○		
40		衛生的で安心して利用できるトイレの整備・更新	57		○		○
41		空調換気設備の設置等利用環境の向上	58	○	○		
42		老朽化した施設の改修・長寿命化対策	58		○		
43		若者が集い交流を図ることができる施設整備の検討	59	○			○
44		競泳等の競技大会が実施できるプール施設の整備検討	59	○			○
45		超高齢社会に対応したやさしく使いやすい施設の整備	60	○	○		○
施策の方向性2 競技スポーツの拠点となる施設の整備							
46		[拡充] 市民運動公園野球場の再整備	61	○	○		○
47	市民運動公園施設の利用環境の向上	62	○	○	○	○	
48	陸上競技場の活用を図るための整備の検討	62	○	○		○	

■ 実施概要

- 募集期間
2023（令和5）年11月20日（月）～12月3日（日）
- 閲覧方法
 - ・ 市ホームページに掲載（本編・概要版）
 - ・ 市施設等に配架（本編・概要版）
本庁舎、市民運動公園、各支所及び日立駅前出張所、各図書館、各交流センター
- 提出方法
Webフォーム、Eメール、郵送、FAX、閲覧場所にある回収ボックスに投函

■ 実施結果

- 意見提出状況

種別	Webフォーム	回収ボックス	Eメール	郵送	合計
件数（人数）	—	19件（12人）	3件（1人）	—	22件（13人）

- 意見反映状況

区分	件数
意見反映（計画に意見を反映するもの）	5
趣旨含む（計画案に異見が既に反映されているもの）	6
取組等の参考とするもの	9
その他（計画に関連しない意見・要望等）	2
合計	22

用語	解説
アルファベット	
SDGs	持続可能な開発目標（Sustainable Development Goals）。2001（平成13）年に策定されたミレニアム開発目標（MDGs）の後継として、2015（平成27）年9月の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」にて記載された2016（平成28）年から2030（令和12）年までの国際目標。持続可能な世界を実現するための17のゴール・169のターゲットから構成され、地球上の誰一人として取り残さない（leave no one behind）ことが宣言されている。
SNS	Social Networking Serviceの略で、登録された利用者同士が交流できるWebサイトの会員制サービスのこと。
か行	
公認陸上競技場	日本陸上競技連盟の公認競技場の種類。公認の陸上競技場には第一種から第五種まで区分がある。第一種は、日本選手権や、国際的な競技会、第二種は、加盟団体の選手権、地方における国際大会、第三種は、加盟団体等が主催する競技会に使用される。
さ行	
指定管理者	地方公共団体が、公の施設の管理を行わせるために、地方自治法に基づき期間を定めて指定する団体のこと。
スポーツ基本法	1961（昭和36）年に制定されたスポーツ振興法を50年ぶりに全面改正し、スポーツに関して基本理念を定め、国・地方公共団体の責務やスポーツ団体の努力等を明らかにするとともに、スポーツに関する施策の基本事項を定めるもので、2011（平成23）年に制定された。
スポーツ少年団	子どもたちが自主的にメンバーとして参加し、「自由時間に、地域社会で、スポーツを中心としたグループ活動を行う」団体。
スポーツ推進委員	市町村におけるスポーツ推進のための実技の指導その他スポーツに関する指導及び助言、事業の企画立案や連絡調整、地域住民や行政、スポーツ団体等の間を円滑に取り持つ等のコーディネーターとして、市町村教育委員会等が委嘱し、地域スポーツ推進の中核的な役割を担う者。
スポーツツーリズム	スポーツの観戦者やスポーツイベントの参加者と開催地周辺の観光とを融合させ、交流人口の拡大や地域経済への波及効果などを目指す取り組み。

用 語	解 説
総合型地域スポーツクラブ	人々が、身近な地域でスポーツに親しむことのできる新しいタイプのスポーツクラブで、子供から高齢者まで（多世代）、様々なスポーツを愛好する人々が（多種目）、初心者からトップレベルまで、それぞれの志向・レベルに合わせて参加できる（多志向）、という特徴を持ち、地域住民により自主的・主体的に運営されるスポーツクラブ。
や行	
ユニバーサルデザイン	ユニバーサル=普遍的な、全体の、という言葉が示しているように、「すべての人のためのデザイン」を意味し、年齢や障害の有無などにかかわらず、最初からできるだけ多くの人々が利用可能であるようにデザインすること。
ら行	
ライフステージ	人間の一生における幼年期・児童期・青年期・壮年期・老年期などのそれぞれの段階。

日立市教育振興基本計画に基づき、公共スポーツ施設の整備計画として令和2年度に策定しました。（計画期間は2021（令和3）年度から2025（令和7）年度までの5年間）

市民アンケートやスポーツ関連団体へのヒアリング等に基づいて現状を把握し、公共スポーツ施設の課題を整理して、以下の5つの方向性を導きました。この方向性を踏まえ反映・発展させながら、今後も本市のスポーツ施設整備を進めます。

1 適正な整備と地域バランスを踏まえた配置

南北に長い市域にバランスよくスポーツ施設を配置することにより、効率よくスポーツを楽しめる環境整備が求められています。

施設整備に当たっては、主要なスポーツ施設を次の3つに分類し、施設の位置付けと整備目的を明確にしながら、不足する機能は相互に補完していきます。

- (1) 拠点スポーツ施設（市民運動公園）
全国規模の大会やトップレベルの試合等が開催できる施設
- (2) 地区スポーツ施設（スポーツ広場）
地区の大会やイベント等が開催できる地域住民の交流の場
- (3) 身近なスポーツ施設（市民広場、学校体育施設、地域体育館等）
幼児から高齢者までが世代を超えて楽しめる身近な施設

2 時代に応じた機能整備と専門性・快適性の確保

市民アンケート等で寄せられた意見、スポーツに関する全国的な動向等を踏まえ、新たな時代に対応できる、使いやすく専門性の高い施設の整備について検討を進めます。

- (1) スポーツ広場、市民広場などグラウンドの芝生化
- (2) 衛生的で安心して使用できるトイレの整備、更新
- (3) 年間を通して使用できる50メートルプールの整備
- (4) 体育館、武道館等に熱中症対策として空調設備を整備
- (5) 施設規模に応じた駐車スペースの確保
- (6) 施設内外のバリアフリー化
- (7) 若者が集い、交流を促すことができる施設
- (8) 本市の自然や地域性をいかした施設

3 超高齢社会に対応したやさしく使いやすい施設整備

家族や友達との交流を楽しみながら健康の維持増進を図り、幸せに暮らすことができるよう、身近な場所に安全で安心して利用できるスポーツ施設の整備を進めます。

- (1) グラウンドゴルフ等を楽しめるようスポーツ広場、市民広場の芝生化
- (2) ランニング・ウォーキングコースの整備
- (3) 施設内外のバリアフリー化

4 企業スポーツ施設の活用

市内の企業が所有するスポーツ施設は、これまでも多くの施設が市民に開放され、本市スポーツの発展、振興を支えてきました。

その歴史を踏まえて、市民が身近に利用できスポーツを楽しむ機会を維持できるように、企業の協力を得ながら、立地や機能面で利便性の高い企業スポーツ施設を活用したスポーツ環境の整備について検討を進めます。

5 特定財源の確保等による計画的な整備

スポーツ施設の新設、更新、維持管理には多くの費用が必要であり、限られた予算の中で効率的に進めるためには国の補助金や交付金、各種補助制度などの活用が重要です。

積極的に特定財源の確保に努めるとともに、優先度や財政負担の平準化を考慮した上で、計画的で効率的な施設整備を進めます。

6 年次計画 [略]

以上